診療科
Clinical Departments

23 循環器内科
呼吸器・膠原病内科
24 消化器内科
腎臓内科
25 内分泌・代謝内科
血液内科
26 脳神経内科
スタッフ一覧
27 スタッフ一覧
28 心臓血管外科
食道・乳腺甲状腺外科
29 呼吸器外科
泌尿器科
30 消化器・移植外科
小児外科・小児内視鏡外科
31 スタッフ一覧
32 眼科
耳鼻咽喉科・頭頸部外科
33 整形外科
皮膚科
34 形成外科・美容外科
スタッフ一覧
35 スタッフ一覧
脳神経外科
36 麻酔科
精神科神経科・心身症科
37 スタッフ一覧
38 小児科
産科婦人科
39 スタッフ一覧
放射線診断科
40 放射線治療科
スタッフ一覧
41 むし歯科
歯周病科
42 そしゃく科
かみあわせ補綴科
43 歯科放射線科
矯正歯科
44 小児歯科
口腔内科
45 口腔外科
歯科麻酔科
46 スタッフ一覧
47 スタッフ一覧

TOKUSHIMA UNIVERSITY HOSPITAL 2023

内科

循環器内科

[外来]tel.088-633-7118
[医局]tel.088-633-7851　[医局]fax.088-633-7894

心臓病、血管病、高血圧などの全ての循環器疾患に対し、専門的かつ最新の検査・治療を行うとともに、特定機能病院として倫理委員会承諾済臨床研究ならびに高度先進医療に取り組んでいます。

診療体制

外来は木曜日を除き毎日3～4名が診療を担当しています。救急症例に関しては、救急集中治療部との連携によりスムーズな受け入れを行っています。入院症例については、1人の患者さんに対し主治医と指導医が協力して診療に当たりその人にとって最適の治療を行っています。

治療方針

毎週木曜日には循環器内科病棟症例検討会にてすべての入院症例の問題点を全員で相談し治療方針を決定しています。また、特に複雑な症例に関しては、関係している他科との合同症例検討会を適宜行っています。

得意分野・主な検査

各種心臓超音波（経胸壁心エコー、経食道心エコー、血管エコーなど）、負荷心電図、心臓CT・MRI、心筋シンチ、心臓電気生理検査、心臓カテーテル検査などの各種検査を幅広く行い、専門治療として冠動脈形成術、急性冠症候群の救急治療、カテーテルアブレーション、ペースメーカー・植込み型除細動器（ICD）植え込み、心臓再同期療法、心臓リハビリテーション、末梢閉塞性動脈疾患に対する幹細胞移植による血管新生治療、遺伝子治療、大動脈狭窄症に対するTAVI（経カテーテル大動脈弁置換術）など最先端の治療を行っています。

対象疾患：虚血性心疾患（心筋梗塞、狭心症など）、不整脈（心房細動・粗動、心室頻拍、上室性頻拍、房室ブロック、洞不全症候群など）、急性並びに慢性心不全、高血圧（本態性高血圧、二次性高血圧）、心筋症（肥大型心筋症、拡張型心筋症、二次性心筋症など）、心臓弁膜症、心筋炎・心膜炎、感染性心内膜炎、肺動脈疾患（肺高血圧、肺塞栓症など）、末梢血管疾患（閉塞性動脈硬化症、深部静脈血栓症など）などすべての循環器疾患を対象としています。

内科

呼吸器・膠原病内科

[外来]tel.088-633-7118
[医局]tel.088-633-7127　[医局]fax.088-633-2134

呼吸器・膠原病内科は、肺がん、間質性肺疾患、気管支喘息、肺炎、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、睡眠時無呼吸症候群等の呼吸器疾患と、関節リウマチ、全身性エリテマトーデス等の膠原病の診療を担当しています。最先端の診断技術による早期診断から高度先進医療まで、患者さんサイドに立った視点から、チームワークを基本とした診療を進めています。また、膠原病・リウマチ県民講座、アレルギーフォーラム等の啓発活動にも力を入れています。

診療体制

■外来：月、火、木、金の週4日、計3-4名の医師が診療に当たっています。（専門外来）化学療法外来（月、木、金）、禁煙外来（金）、睡眠時無呼吸外来（金）

■病棟：担当医を中心に数名の医師がチームになって診療に当たっています。毎週月曜日には、新規に入院した患者さんについて、水曜日には入院患者さん全員の経過について呼吸器・膠原病内科全体で検討し治療方針を決定しています。

治療方針

各種呼吸器疾患、関節リウマチ・膠原病についてガイドラインに基づいた適切な診療を行っています。肺がんのように、内科的治療以外に手術や放射線治療が必要な患者さんについては、呼吸器外科、放射線科医師と週一回合同カンファレンスを行い、より良い治療を目指し方針を決めています。また、肺がんや間質性肺炎の国際共同治験に積極的に参加し、最先端の医療を提供できるよう努めています。

得意分野

呼吸器疾患全般、リウマチ・膠原病全般

対象疾患

呼吸器疾患全般（肺がん、間質性肺疾患、気管支喘息、肺炎、COPD、睡眠時無呼吸症候群等）、膠原病全般（関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、皮膚筋炎・多発性筋炎、強皮症、血管炎等）が対象疾患になります。

主な検査

■気管支鏡検査（超音波気管支鏡、蛍光気管支鏡を含む）、呼吸機能検査、アストグラフ・呼気NO測定（気管支喘息の診断）、ポリソムノグラフィー（睡眠時無呼吸症候群の診断）

■関節超音波検査（関節リウマチの診断・経過観察）

内科

消化器内科

[外来]tel.088-633-7118　[外来]fax.088-633-7479

食道癌、胃癌、大腸癌、肝癌、膵癌、胆道癌などの消化器癌を初め、炎症性腸疾患、肝炎、膵炎、胆石などの消化器全般の診療を行っています。また、県内及び県外の多数の関連病院と人的交流を行いながら、幅広い地域診療も行っています。

診療体制

最先端の診療技術による早期診断から最新の手技・薬剤を用いた治療に至るまで、患者さんとのコミュニケーションを重視し、地域の医療機関とも連携した診療を進めていきます。

治療方針

胃癌を初めとする早期消化管癌に対しては、内視鏡的粘膜下層剥離術を積極的に行っており、バルーン拡張術、ステント留置術、アルゴンプラズマ凝固療法など多種の内視鏡的治療も行っています。一方進行消化器癌に対する薬物療法では、新しい抗癌剤や分子標的治療薬を組み合わせた最新の治療を導入しています。また肝炎に対する最新の抗ウイルス薬などによる発癌予防とともに、肝癌に対する内科的治療も積極的に行っています。

得意分野

■早期消化管癌（食道・胃・大腸）に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）、肝癌に対する経皮的ラジオ波焼灼術（RFA）、経カテーテル的肝動脈塞栓術（TAE）、進行食道癌に対する化学放射線療法

■進行胃癌に対する多剤併用化学療法、進行大腸癌に対する分子標的治療薬を併用した化学療法、進行膵癌に対する化学放射線療法

対象疾患

消化器癌：食道癌、胃癌、大腸癌、肝癌、膵癌、胆嚢癌、胆管癌など

肝疾患：C型・B型肝炎、アルコール性肝炎、自己免疫性肝炎、原発性胆汁性肝硬変など

炎症性腸疾患：潰瘍性大腸炎、クローン病

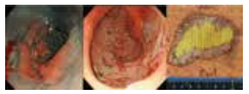
その他：食道・胃静脈瘤、胆道炎、膵炎、胃・十二指腸潰瘍など

主な検査

消化管疾患：上部・下部消化管内視鏡検査（NBI、拡大観察）、超音波内視鏡検査、ダブルバルーン小腸内視鏡検査、小腸カプセル内視鏡検査など

肝・胆・膵疾患：腹部超音波検査、肝生検、腹部血管造影検査、内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査、超音波内視鏡下穿刺細胞診など

早期胃癌の内視鏡治療（ESD）



切除前　切除後　切除した胃組織

進行胃癌の化学療法前後

治療前　治療後

肝癌に対するラジオ波焼灼術

内科

内分泌・代謝内科

[外来]tel.088-633-7118　[外来]fax.088-633-7479
[医局]tel.088-633-7120　[医局]fax.088-633-7121

内分泌・代謝内科では、内科、内分泌、糖尿病の専門医資格を有するスタッフが視床下部・下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎、性腺などの内分泌機能異常症および糖、脂質、尿酸、カルシウム・リンなどの代謝異常の診断を行っております。糖尿病、高血圧、脂質異常、肥満症、骨粗鬆症などの生活習慣病の診療から先天性疾患の遺伝子診断などの高度先進医療に至るまで、幅広い分野にわたる良質の医療を皆様に提供できるよう努めております。

診療体制

複雑に絡み合う病態にも対応できるように内分泌疾患、代謝疾患を総合的に診療できる体制を整えておりますが、ご紹介頂く際により分かり易い外来とするため「内分泌・代謝内科」と「糖尿病外来」「肥満外来」を並立致しました。

治療方針

日本内分泌学会、日本糖尿病学会などで標準化された診断基準・治療指針に基づき治療を行っております。

得意分野

■内分泌疾患および糖尿病、高血圧、脂質異常症、肥満症、骨粗鬆症、痛風などの代謝性疾患の診断と治療。

■負荷試験などの専門的手法を用いた視床下部・下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎、性腺内分泌系の機能診断。

■下垂体、副腎腫瘍に対する外科と連携した専門的治療、バセドウ眼症に対する放射線併用ステロイドパルス療法などの専門的治療。

■インスリンポンプ療法や持続血糖モニタリングなどの先進的な1型糖尿病診療。

■病診連携に基づいた糖尿病治療、合併症評価、インスリン導入など。

■動脈硬化症の早期診断とその予防。

■高度肥満症に対する肥満外科手術をとり入れた専門的治療。

■高齢者に対する生活習慣病治療。

対象疾患

視床下部・下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎、性腺などの内分泌疾患全般、および糖尿病、高血圧、脂質異常症、骨粗鬆症、痛風をはじめとする糖、脂質、骨、尿酸などの代謝疾患。肥満症。

主な検査

下垂体・副腎負荷試験をはじめとする各種ホルモン負荷試験、経口ブドウ糖負荷試験、薬剤負荷試験。画像診断として甲状腺エコー検査、頸動脈エコー検査、血管内皮機能検査など。

内科

腎臓内科

[外来]tel.088-633-7118
[医局]tel.088-633-7184　[医局]fax.088-633-9245

腎臓は生体の体液恒常性維持機構、老廃物の排泄、血圧の調節、骨代謝、貧血など多岐にわたって生体で重要な働きをします。慢性腎臓病（chronic kidney disease: CKD）の進行、すなわち腎機能低下や蛋白尿の増加は、腎不全へ進行するだけでなく、心血管事故・死亡の重要なリスクとなることがわかり、早期からの腎臓病の診断と必要に応じた適切な治療の継続が非常に重要であることが明らかになってきています。

診療体制

腎臓内科では、慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、糖尿病性腎症などの慢性腎臓病（CKD）および急性・慢性腎不全などの内科的腎障害の診断と治療を行っています。腎臓内科・透析専門医のチームとして、難治性腎疾患の診断・治療を行い、県下の各診療機関からの紹介や治療相談にも幅広く対応しています。

治療方針・得意分野

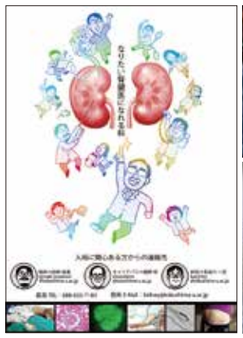
診療対象は下記の如く、とても多彩ですが、これは腎臓内科があつかう疾患の特徴ともいえます。全身の体液の恒常性維持を担う臓器である腎臓の障害の影響は、さまざまな腎以外の臓器にも及び、また、多くの全身性疾患の一部分症として腎障害が認められることも多いのが実際です。我々は、腎臓や透析の専門医は当然のことながら、内科専門医・総合内科専門医なども有し、腎臓を含めた全身のマネージメントを実施しております。

対象疾患

①進行性腎疾患（腎炎・ネフローゼ症候群）の診断と治療、②慢性腎臓病（CKD）の精査および加療、③糖尿病性腎症など糖尿病に合併する腎障害の精査・加療、④腎疾患を伴った自己免疫疾患などのさまざまな全身性疾患の治療・全身管理、⑤慢性腎不全の保存的治療と教育（入院）および合併症の診断治療、⑥透析導入（血液透析・腹膜透析）、⑦水電解質異常・酸塩基平衡異常の精査・加療、⑧急性腎不全の精査・加療、⑨腎機能低下患者での血圧管理をはじめとする薬剤適正使用の管理・指導、⑩腎移植患者およびドナーの管理、⑪小児腎臓病患者の成人への移行症例、⑫腎臓病に関わる社会保障システムの活用による患者さんの生活支援。

主な検査

腎生検、各種画像検査（エコーによる精査など）、尿検査・沈渣、血液検査とさまざまな全身性疾患・合併症の診断のための各種検査。維持透析患者のブラッド・アクセス管理のための検査。腹膜透析に関する検査。



内科

血液内科

[外来]tel.088-633-7118
[医局]tel.088-633-7120　[医局]fax.088-633-7121

血液疾患全般を対象に、特定機能病院として安全で質の高い医療および高度医療を提供します。患者さんと検査・治療方針などについてよく話し合い、地域の関連医療機関との連携のもとに診療を進めております。

診療体制

血液内科専門医を中心とした担当医グループ、歯科医、看護師、薬剤師、臨床心理士、栄養士、臨床工学技士、理学療法士、作業療法士などとチーム診療を行います。

治療方針

特定機能病院として、下記のような治療を行っております。

① 同種造血幹細胞移植療法　急性白血病、骨髄異形成症候群やリンパ腫などの造血器腫瘍、再生不良性貧血などの骨髄不全に対し、無菌管理の出来る病棟で同種骨髄、末梢血幹細胞および臍帯血移植を行っています。また、近年ではHLA半合致移植も増えていますし、免疫抑制療法、感染症対策や支持療法の進歩により治療成績が向上しています。

② 自家造血幹細胞移植併用大量化学療法　急性前骨髄球性白血病、リンパ腫や多発性骨髄腫に対し自家造血幹細胞移植を併用した大量化学療法を行っています。

③ 造血器腫瘍に対する化学療法　急性白血病、骨髄異形成症候群、リンパ腫や多発性骨髄腫などの造血器腫瘍に対する様々な化学療法を行っています。近年、様々な薬剤が臨床応用され、治療成績が益々向上しております。多発性骨髄腫をはじめ、各疾患に対して、新規治療薬を積極的に導入しております。

④ 無菌管理を要する治療　移植後の拒絶反応に対する免疫抑制療法を受けられる患者さんや免疫不全の患者さんに対し、無菌管理のできる病棟で感染を防御します。

⑤ 新しい薬剤の臨床試験や基礎研究　治療抵抗性の造血器腫瘍に対しては、従来の治療法より効果が期待できる新規治療法が求められています。そのために、新たな治療法の開発とその基礎的知見の発見を目的として、大学病院として臨床試験や基礎的、臨床的研究を行っています。

得意分野

① 多発性骨髄腫の診療

② 造血幹細胞移植

③ 白血病、リンパ腫、多発性骨髄腫などの造血器腫瘍、再生不良性貧血などの難治性造血障害や出血・凝固異常など

特徴・特色

西病棟10階の全フロアが、無菌管理可能な細胞治療センターです。血液悪性腫瘍やその他の血液疾患に対して、造血幹細胞移植や強力な化学療法などの専門診療を行っております。日本造血・免疫細胞療法学会の移植認定施設、日本骨髄バンクの認定採取施設であり、移植患者さんや移植ドナーさんを多数受け入れております。また、地域の関連医療機関と診療連携を密にした体制を確立しております。

内科

脳神経内科

[外来]tel.088-633-7118　[外来]fax.088-633-7479
[医局]tel.088-633-7207

「神経系全般にわたる広い守備範囲、〝治る脳神経内科〟」
3大成人病の一つである脳卒中や頭痛、しびれ、アルツハイマー病などのありふれた病気から、筋萎縮性側索硬化症のような難病までを診療対象とし、病気は脳、脊髄、末梢神経、筋肉など、神経系全般にわたります。診断、治療ともに進歩しています。

診療体制

外来診療では、主として専門医が脳神経内科疾患全般を担当しています。病棟では毎週行われるカンファレンスにおいて詳細な検討を行い、チーム医療により診療にあたっています。

治療方針

■ボツリヌス毒素治療
痙性斜頸、眼瞼けいれんなどの運動異常症に対し筋肉注射療法を行います。
■神経難病に対する治療の試み
筋萎縮性側索硬化症に対しメチルコバラミン大量療法などの実績があります。
■ストロークケアユニット
脳神経外科、救急集中治療部、放射線科などと協力し、急性期の脳卒中の患者さんを受け入れ早期治療を目指します。血栓溶解療法、血栓回収療法など高度な医療も行っています。

対象疾患

頭痛、しびれ、認知症、痙性斜頸、眼瞼けいれんなどの運動異常症、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、パーキンソン病、多発性硬化症、ギラン・バレー症候群、末梢神経障害、脊髄炎、重症筋無力症など。

主な検査

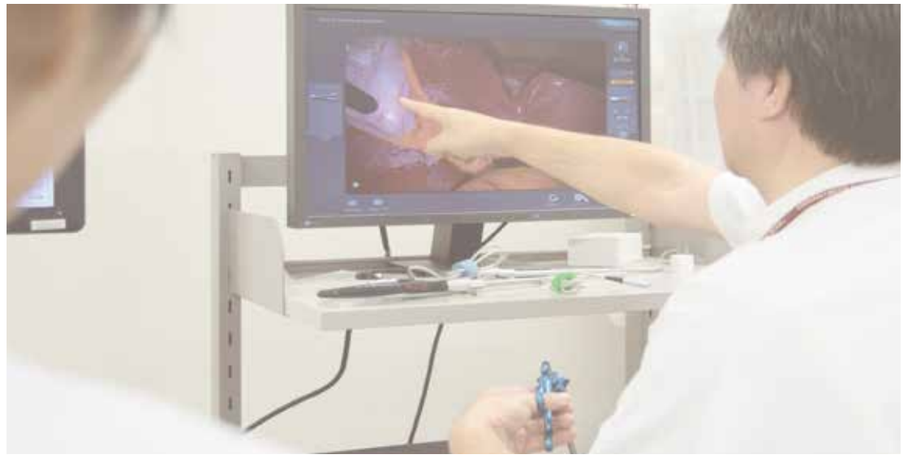
■筋電図・神経伝導検査
末梢神経、神経根、神経筋接合部、筋肉、脊髄の疾患が疑われた時、弱い電気を手足の神経に当てたり、小さな針を筋肉に挿入したりして異常部位の診断を行います。

スタッフ一覧
令和五年四月一日現在［最新情報は徳島大学病院ホームページでご確認ください。］

診療科名	役職	職名	氏名	専門分野
循環器内科	科長	教授	佐田　政隆	循環器、心臓カテーテル治療、虚血性心疾患、動脈硬化、高血圧、再生医療
	副科長	准教授	若槻　哲三	循環器、虚血性心疾患、心臓カテーテル治療
	医局長	特任教授	添木　武	循環器、不整脈、心不全、心臓カテーテル治療（アブレーション）
	病棟医長	助教	伊勢　孝之	循環器、心不全、心臓カテーテル治療
	総務医長	講師	楠瀬　賢也	循環器、心血管画像診断
		特任教授	山田　博胤	循環器、心臓超音波、心不全、心筋症、肺高血圧症
		特任教授	八木　秀介	循環器、高血圧、動脈硬化
	外来医長	助教	山口　浩司	循環器、虚血性心疾患、心臓カテーテル治療
		助教	松浦　朋美	循環器、不整脈、心臓カテーテル治療（アブレーション）
		教授	赤池　雅史	医療教育、循環器、老年病
		特任助教	伊藤　浩敬	循環器
		助教	川端　豊	循環器
		特任助教	門田　宗之	循環器
		特任助教	原　知也	循環器
		特任助教	西條　良仁	循環器
		特任助教	高橋　智紀	循環器
呼吸器・膠原病内科	科長	教授	西岡　安彦	呼吸器疾患およびリウマチ・膠原病全般、特にびまん性肺疾患、肺がん、がん免疫療法
		特任教授	埴淵　昌毅	呼吸器疾患およびリウマチ・膠原病全般、特に気管支喘息
		准教授	東　桃代	呼吸器疾患およびリウマチ・膠原病全般、特に感染症（渡航外来担当）
		講師	坂口　暁	呼吸器疾患およびリウマチ・膠原病全般、特に肺がん
		特任准教授	河野　弘	呼吸器疾患およびリウマチ・膠原病全般、特にリウマチ・膠原病
	副科長・総務医長	准教授	佐藤　正大	呼吸器疾患およびリウマチ・膠原病全般、特にびまん性肺疾患
		助教	小山　壱也	呼吸器疾患およびリウマチ・膠原病全般、特にびまん性肺疾患
		特任助教	阿部　あかね	呼吸器疾患およびリウマチ・膠原病全般、特に感染症
		講師	荻野　広和	呼吸器疾患およびリウマチ・膠原病全般、特に肺がん（化学療法外来担当）
		助教	米田　浩人	呼吸器疾患およびリウマチ・膠原病全般、特に肺がん（化学療法外来担当）
	外来医長	特任助教	尾崎　領彦	呼吸器疾患およびリウマチ・膠原病全般、特に肺がん（化学療法外来担当）
	病棟医長	助教	内藤　伸仁	呼吸器疾患およびリウマチ・膠原病全般、特にリウマチ・膠原病
		助教	土師　恵子	呼吸器疾患およびリウマチ・膠原病全般、特にびまん性肺疾患
		特任助教	福家　麻美	呼吸器疾患およびリウマチ・膠原病全般
		特任助教	三橋　惇志	呼吸器疾患およびリウマチ・膠原病全般、特に肺がん

スタッフ一覧
令和五年四月一日現在［最新情報は徳島大学病院ホームページでご確認ください。］

診療科名	役職	職名	氏名	専門分野
消化器内科	科長	教授	高山　哲治	消化器病学、肝臓病学、消化器内視鏡学、臨床腫瘍学
	副科長	准教授	宮本　弘志	消化器病学、胆膵疾患、消化器内視鏡学、臨床腫瘍学
	総務医長	助教	岡田　泰行	消化器病学、胆膵疾患、臨床腫瘍学
	外来医長	特任助教	田中　宏典	消化器病学、肝臓病学、臨床腫瘍学
	病棟医長	特任助教	喜田　慶史	消化器病学、消化器内視鏡学、炎症性腸疾患、臨床腫瘍学
		講師	岡本　耕一	消化器病学、消化器内視鏡学、臨床腫瘍学
		講師	友成　哲	消化器病学、肝臓病学、消化器内視鏡学、臨床腫瘍学
		助教	藤野　泰輝	消化器病学、消化器内視鏡学、臨床腫瘍学
		助教	三井　康裕	消化器病学、消化器内視鏡学、臨床腫瘍学
		特任教授	岡久　稔也	消化器病学、消化器内視鏡学、炎症性腸疾患
		特任教授	佐藤　康史	消化器病学、肝臓病学、消化器内視鏡学、臨床腫瘍学
		特任准教授	河野　豊	消化器病学、肝臓病学、消化器内視鏡学、臨床腫瘍学
		特任助教	中村　文香	消化器病学、消化器内視鏡学、臨床腫瘍学
		特任助教	影本　開三	臨床腫瘍学、消化器病学、消化器内視鏡学
腎臓内科	科長	教授	脇野　修	腎臓内科全般、腎不全、透析
	副科長・外来医長	准教授	長谷川　一宏	腎臓内科全般、腎不全透析
	総務医長	講師	田蒔　昌憲	腎臓内科全般、腎不全、透析
	病棟医長	助教	柴田　恵理子	腎臓内科全般、腎不全、透析
		特任助教	湊　将典	腎臓内科全般、腎不全、透析
内分泌・代謝内科	科長・総務医長	教授	遠藤　逸朗	内分泌・代謝学全般、糖尿病、骨粗鬆症
	副科長・外来医長	特任講師	倉橋　清衛	内分泌・代謝学全般、糖尿病
		教授	松久　宗英	糖尿病
		特任教授	粟飯原　賢一	内分泌・代謝学全般、糖尿病
		准教授	黒田　暁生	糖尿病
		助教	原　倫世	内分泌・代謝学全般、糖尿病
	病棟医長	特任助教	山上　紘規	内分泌・代謝学全般、糖尿病
血液内科	科長	講師	三木　浩和	血液内科学、輸血学
	副科長・外来医長	講師	藤井　志朗	血液内科学、造血幹細胞移植
	総務医長	准教授	原田　武志	血液内科学
	病棟医長	助教	曽我部　公子	血液内科学
		特任准教授	中村　信元	血液内科学
		特任助教	大浦　雅博	血液内科学
		特任助教	住谷　龍平	血液内科学
脳神経内科	科長	教授	和泉　唯信	脳神経内科全般、神経変性疾患
	副科長・総務医長	講師	藤田　浩司	脳神経内科全般
	病棟医長	特任助教	山崎　博輝	脳神経内科全般
	外来医長	特任助教	土師　正太郎	脳神経内科全般
		准教授	松井　尚子	脳神経内科全般
		特任講師	山本　伸昭	脳神経内科全般
		特任講師	宮本　亮介	脳神経内科全般
		助教	大崎　裕亮	脳神経内科全般
		特任助教	松原　知康	脳神経内科全般



外科

心臓血管外科

[外来]tel.088-633-7150　[外来]fax.088-633-7483
[医局]tel.088-633-7581　[医局]fax.088-633-7408
[HP]https://tokudai-cvs.jp

虚血性心疾患・心臓弁膜症、大動脈疾患、先天性心疾患などに対して低侵襲化とQOLの改善を追求した外科治療を行っています。

得意分野・対象疾患

① 心臓弁膜症手術：大動脈弁狭窄症・閉鎖不全症、僧帽弁狭窄症・閉鎖不全症など。大動脈弁狭窄症に対しては、従来の開胸手術に加えて、手術リスクの高い方や併存症の多い方に経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI）を実施しており、現在では通算症例数が100例を超えました。
僧帽弁疾患では可能な症例で弁形成を行い、また小開胸（MICS）手術を可能症例では実施し低侵襲化を目指しています。
② 先天性心疾患：美容面を意識した小切開創手術、チアノーゼの 早期除去と小児の成長を考慮した自己組織による再建手術（フォンタン手術、ファロー四徴症根治術等）。
③ 虚血性心疾患：off-pump冠動脈バイパス手術（CABG）、心室中隔穿孔、虚血性心筋症、心室瘤・破裂手術など。四国で初めて下肢大伏在静脈採取に内視鏡採取装置を導入・活用し、より低侵襲化を目指しています。
④ 大動脈疾患（大動脈瘤・大動脈解離）：ステントグラフト内挿術と人工血管置換術、また両者を組み合わせたハイブリッド手術など低侵襲を基本に確実な治療を心がけております。高齢者でも早期の社会復帰が可能です。
⑤ 末梢血管疾患（閉塞性動脈硬化症など）：外科手術とカテーテル治療を専門医が一貫して行い個々に最適な治療が可能です。
⑥ 静脈血栓塞栓症・急性肺塞栓症：肺塞栓症重症例では肺動脈血栓除去術を行います。

主な治療対象

先天性心疾患、弁膜症、冠動脈、大動脈、末梢血管、静脈疾患等

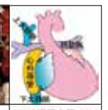
夜間連絡先

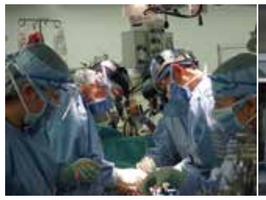
① 救急外来　　tel. 088 - 633 - 9211

小開胸（MICS）手術

ハイブリッド手術室

大動脈ステントグラフト内挿術


心外導管を用いたフォンタン手術



外科

呼吸器外科

[外来]tel.088-633-7136　[外来]fax.088-633-7482
[医局]tel.088-633-7143　[医局]fax.088-633-7144

呼吸器疾患における外科領域全般を担当しており、肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍の手術を始めとし、気管支鏡によるインターベンションにも積極的に取り組んでいます。新しい診断治療の開発を行う研究機関として、また呼吸器外科専門医育成の教育機関としての責任も果たすことができるよう日々研鑽を行っています。

診療体制

7名の呼吸器外科専門医が日々の診療にあたるという、全国的にみても非常に充実した診療体制をひいています。呼吸器内科、放射線科との合同カンファレンスを開催し、病理部との密な連携体制も構築しており、「呼吸器チーム」として患者さんに最良の治療を提供できるよう心掛けています。

治療方針

標準治療を確実に提供し、患者さんにとって有益と考えられる先進医療は積極的に取り入れるようにしています。当科で扱う主な疾患の治療方針については、病院ホームページ(http://www.tokushima-hosp.-jp/)の呼吸器外科の案内をご参照ください。

得意分野

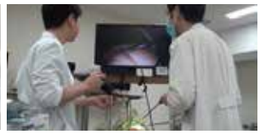
肺癌手術：標準手術（肺葉切除と系統的リンパ節郭清）は胸腔鏡下手術（3つの小さな創部で行う内視鏡手術）で行っています。早期肺癌（非浸潤癌）に対する胸腔鏡下肺部分切除においては、ハイブリッド手術室で行う気管支鏡下金属コイルマーキングという技術で、確実な病変の切除を行っています。ロボット支援手術も行なっています。局所進行肺癌に対しては、呼吸器内科・放射線科と連携しながら術前化学放射線治療を行うことで、手術成績の向上に努めています。隣接臓器合併切除や再建を要するような高難度手術に際しては、手術にあたるチームで事前の綿密なシミュレーションも行い、安全な手術が行えるようにしています。
光線力学療法：気管支に発生する早期肺癌に対しては、光線力学療法というレーザー治療で根治を目指します。
気道狭窄に対する治療：良性・悪性の気道狭窄に対する手術、レーザー焼灼、ステント留置を数多く実施しています。
縦隔腫瘍の外科治療：胸腺腫、胸腺癌、胚細胞性腫瘍などに対して、手術治療を中心とした集学的治療に実績があります。縦隔腫瘍に対するロボット手術、内視鏡下手術も行っています。
重症筋無力症：神経内科と連携して重症筋無力症に対する手術（拡大胸腺摘出術）を行っています。より低侵襲な内視鏡下胸腺摘出術も積極的に行っています。

対象疾患

肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、重症筋無力症、胸壁腫瘍、胸膜中皮腫、気胸（特に難治性気胸）、膿胸、漏斗胸、多汗症など。

主な検査

仮想気管支鏡ナビゲーションおよびCone-beam CT併用気管支鏡検査（肺腫瘤生検、リンパ節生検）、蛍光気管支鏡検査、胸腔鏡検査など。



外科

食道・乳腺甲状腺外科

[外来]tel.088-633-7136　[外来]fax.088-633-7482
[医局]tel.088-633-7143　[医局]fax.088-633-7144

食道・乳腺甲状腺外科は、食道疾患、甲状腺疾患および乳腺疾患の診断・治療を行っています。消化管から内分泌臓器、胸腔まで、幅広い知識と高度な技術をもった専門スタッフが診療します。綿密な検査・治療計画に基づいて診療情報を提供し、十分なインフォームドコンセントのもとに安心できる治療を提供いたします。長年にわたる基礎的、臨床的研究の蓄積により精度の高いセンチネルリンパ節ナビゲーションや安全な内視鏡手術手技を駆使した最先端医療を実践しています。

診療体制

食道外科専門医1名、食道科認定医2名、乳腺専門医4名、内分泌外科専門医2名、他2名の担当医師が診療を行っています。

得意分野・対象疾患

〔食道外科〕食道癌、食道粘膜下腫瘍、食道アカラシア、食道裂孔ヘルニア、胃食道逆流症、乳び胸など
〔乳腺外科〕乳癌など
〔甲状腺外科〕甲状腺癌、甲状腺機能亢進症（バセドウ病）、甲状腺良性腫瘍など
胸部外科を中心とした低侵襲治療・集学的治療

治療方針

我々の目指す医療は根治性を担保した低侵襲手術です。正確な診断、親身になった治療選択、思いやりと技術を駆使した最先端医療を実現します。
食道外科
①鏡視下手技を駆使した低侵襲手術（縦隔鏡下手術）
②表在癌に対するセンチネルリンパ節ナビゲーション（臨床研究）
③進行癌に対する導入化学療法
④食道癌に対するステント治療・バイパス手術・光線力学的治療
⑤放射線科との連携による化学放射線療法
乳腺外科
①低侵襲で整容性に満足できる乳房温存療法
②最短入院期間で完了する乳房手術
③独自に開発した精度の高いセンチネルリンパ節ナビゲーション手術
④形成外科との連携による乳房再建術
⑤産婦人科との連携による妊孕性温存
甲状腺外科
①整容的に満足できる低侵襲手術（内視鏡手術など）
②分子標的治療を含む薬物治療
③放射線科との連携による甲状腺疾患の治療

主な検査

〔食道外科〕上部消化管内視鏡検査、食道造影、嚥下造影、CTリンパ管造影、（超音波）気管支鏡検査、食道内圧測定、24時間PHモニタリングなど、〔乳腺外科〕乳腺超音波検査（穿刺吸引細胞診、経皮針生検）、CTリンパ管造影、マンモトーム生検など、〔甲状腺外科〕頸部超音波検査（穿刺吸引細胞診）、PET／CT検査など

外科

泌尿器科

[外来]tel.088-633-7157
[医局]tel.088-633-7159　[医局]fax.088-633-7160

当科では、低浸襲な治療をモットーに、副腎、腎、尿管、前立腺疾患に対するロボット手術や腹腔鏡手術、経尿道的手術など、最新の治療に積極的に取り組んでいます。また、腎細胞癌や前立腺癌など泌尿器悪性腫瘍に対して、手術や薬物療法、放射線治療などを併用して、治療困難な症例に対しても個々の症例に合わせた適切な治療を行っています。

診療体制

外来診療は専門医が二診制で行っており、前立腺小線源、小児泌尿器科、女性泌尿器科、神経因性膀胱、腎移植、メンズヘルスに関しては専門外来を設けています。入院診療は2名以上の主治医が責任を持って診療を行う体制をとっています。

治療方針

スタッフ一同、十分な説明と丁寧な診療を心がけています。また、診断や治療に関しては、毎週、スタッフ全員で、ディスカッションを行い、よりよい医療を提供できるように努力しています。

得意分野

■ロボット手術：前立腺癌、腎細胞癌、膀胱癌などの泌尿器悪性腫瘍や、腎盂尿管移行部狭窄症、骨盤臓器脱などの良性疾患に対しても積極的に行っています。
■腹腔鏡手術：副腎腫瘍、腎腫瘍、腎盂尿管腫瘍に対し、多くの手術を手がけています。
■前立腺小線源療法：限局性前立腺癌に対して、約1,000例の患者さんに治療を行っています。QOLの高い治療法です。
■進行癌に対する各種薬物療法（抗がん剤、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬など）
■尿路結石に対し、内視鏡下のレーザー治療を行っています。
■腎不全、腎移植:腎不全患者のためのブラッドアクセス作成、腎移植を積極的に取り組んでいます。
■小児泌尿器科：停留精巣や包茎など一般的な疾患だけでなく、尿道下裂など手術手技の高度な疾患も含めて診療しています。膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡手術も行っています。
■女性泌尿器科：尿失禁、骨盤臓器脱など女性特有の疾患の診療に取り組み、手術治療も積極的に行っています。
■男性不妊・勃起機能不全症：男性不妊患者の診断や治療、婦人科と協力して体外受精の際の精子採取などを行っています。

対象疾患

①前立腺癌、膀胱癌、腎癌、精巣癌、腎盂尿管癌、陰茎癌などの泌尿生殖器悪性腫瘍②尿路結石症③副腎腫瘍④前立腺肥大症、尿失禁などの排尿障害⑤小児泌尿器科疾患⑥女性泌尿器科疾患⑦泌尿生殖器感染症⑧男性不妊症や勃起機能不全症⑨腎不全などで、泌尿器科に関わる幅広い疾患を対象としています。

主な検査

血液検査、尿検査、超音波、CT、MRI、膀胱鏡、シンチグラフィー、膀胱機能検査、精液検査、前立腺生検

外科

消化器・移植外科

[外来]tel.088-633-7136　[外来]fax.088-633-7482
[医局]tel.088-633-7139　[医局]fax.088-631-9698

「拡大切除・機能喪失から低侵襲・再生外科へ」をスローガンに、胃、大腸、肝癌の鏡視下手術の標準化、肝移植・膵島移植の臨床応用、難治性の肝、胆嚢、膵癌の先進医療開発などを目指し、日夜研鑽を積んでいます。

診療体制

日本外科学会、日本消化器外科学会の専門医制度指定修練施設であり、日本肝胆膵外科学会高度技能医制度の認定修練施設(A)、徳島県肝疾患診療連携拠点病院に指定されている当科には日本外科学会、消化器外科学会をはじめ主要学会の専門医、指導医が多数在籍し、疾患別グループで責任を持って診察、手術を行う体制をとっています。

診療方針

肝胆膵、消化管疾患に対して3D画像解析を駆使し安全に手術を行い、術後の早期回復と入院期間の短縮を目指しています。全国規模、さらに最近では世界規模の臨床研究にも積極的に参加し、臨床研究の発展にも大きく貢献しています。

得意分野

肝胆膵領域の悪性疾患(肝、胆道、膵臓癌)に対する手術を中心とした集学的治療：3次元画像解析の応用による安全な肝切除や腹腔鏡下肝切除術の導入、胆膵癌の拡大手術とともに抗癌剤による補助療法などの集学的治療を積極的に行っています。膵切除件数は、30-40例、肝切除件数も年間80例程度となっています。

非代償性肝硬変、劇症肝炎、肝細胞癌に対する肝移植：ほかの治療法で延命が得られない症例に生体肝移植術を施行し、最近は、最難関の血液型不適合移植にも成功し、トップクラスの成績を挙げています。

消化管外科における鏡視下手術：100例以上の胃癌、大腸・直腸癌手術を行い、高難度手術も実施しています。胃切除、結腸切除、直腸切除に手術用ロボットda Vinci を導入したロボット手術や、中四国で初めて導入した腹腔鏡下の肥満手術(スリーブ手術)も行っています。直腸癌に対しては術前化学放射線療法を施行し、予後の改善、肛門温存に努めております。

手術不適応の進行癌や再発癌へは最新の化学療法、化学放射線治療とともに奏功例には手術を導入するなどの集学的治療も積極的に行っています。

遺伝子解析を用いたテーラーメード治療：腫瘍の遺伝子解析で術後補助療法の効果を検討し、個別のテーラーメード治療の実現に取り組んでいます。

対象疾患

消化管、肝胆膵のあらゆる疾患(胃癌、大腸癌、肝癌、膵癌、胆道癌など)を診療しています。お近くの病院で精密検査、手術等の治療が必要と言われた場合は、一度受診をお勧めします。

外科

小児外科・小児内視鏡外科

[外来]tel.088-633-7136　[外来]fax.088-633-7482
[医局]tel.088-633-9276　[医局]fax.088-631-9698

生まれたばかりの新生児から15歳までの小児を対象に外科的疾患を治療する特殊診療科です。

診療体制

当科では小児外科指導医・内視鏡外科技術認定医の資格を持った常勤医1名と小児外科専門医1名、後期研修医1名で診療を行っています。また、県内唯一の小児外科学会認定施設であり、24時間体制で緊急手術を要する小児救急疾患に対応しています。

治療方針

小児外科では、同一の疾患においても成長発達段階にある子供一人一人で状況が異なるため、患児それぞれに応じたtailor-made医療を目指します。

得意分野

低侵襲性の外科治療である内視鏡手術を全国に先駆けて小児に導入し、鼠径ヘルニア(脱腸)に対しては当科で考案したLPEC法で治療しています。手術件数の半数以上を内視鏡下手術で行っており、その実施率は全国一を誇っています。

対象疾患

■一般小児外科：鼠径ヘルニア・精索水瘤・精巣水瘤、停留精巣、包茎、臍ヘルニア、肛門周囲膿瘍・痔瘻、頚部嚢胞性疾患

■新生児外科：先天性食道閉鎖症、新生児胃破裂、先天性横隔膜ヘルニア、臍帯ヘルニア、腹壁破裂、十二指腸閉鎖・狭窄症、腸回転異常症、小腸閉鎖症、胎便性腹膜炎、壊死性腸炎、膀胱腸裂、ヒルシュスプルング病、直腸肛門奇形(鎖肛)

■腫瘍：血管腫、リンパ管腫、神経芽腫、肝芽腫、腎芽腫、横紋筋肉腫、胚細胞腫瘍(奇形腫・セミノーマ、卵黄嚢腫、絨毛癌)

■肝胆道系疾患：胆道閉鎖症、先天性胆道拡張症(膵胆管合流異常)

■消化管：胃食道逆流症、胃軸捻転症、肥厚性幽門狭窄症、腸管重複症、消化管ポリープ、慢性便秘、腸間膜嚢腫

■泌尿器：先天性水腎症・水尿管症(腎盂尿管移行部狭窄、重複腎盂尿管、尿管膀胱移行部狭窄)、先天性腎嚢胞性疾患、尿管瘤、膀胱尿管逆流症、後部尿道弁、尿道下裂

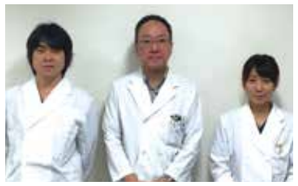
■呼吸器：肺分画症、先天性気管狭窄症、気管軟化症、先天性嚢胞性腺腫瘍肺奇形(CCAM)、気胸、膿胸

■形成外科：漏斗胸、臍突出症(でべそ)

■救急：急性虫垂炎、腹部外傷、気道・消化管異物、腸重積症、鼠径ヘルニア嵌頓、急性陰嚢症、急性腹症

主な検査

■消化管造影検査、食道機能検査(食道内圧、PHモニター)、直腸肛門機能検査(便秘に対する排便機能検査)、直腸粘膜組織化学的検査、超音波検査



令和五年四月一日現在［最新情報は徳島大学病院ホームページでご確認ください。］

診療科名	役職	職名	氏名	専門分野
心臓血管外科	科長	教授	秦　広樹	心臓弁膜症/冠動脈バイパス手術・重症心不全に対する再生療法・外科治療・補助人工心臓
	副科長	准教授	北市　隆	先天性心疾患、心臓血管外科一般
		特任講師	藤本　鋭貴	大動脈・末梢血管外科(特に血管内治療)
	総務医長・外来医長	助教	菅野　幹雄	先天性心疾患、心臓血管外科一般
		特任助教	松本　遼太	重症心不全に対する再生治療・外科治療、心臓血管外科一般
	病棟医長	助教	山本　正樹	成人心疾患(冠動脈・弁膜症)、大動脈手術(血管内治療含む)、心臓血管外科一般
食道・乳腺甲状腺外科	科長	講師	後藤　正和	食道外科
	副科長・総務医長	講師	井上　聖也	食道外科
	病棟医長	講師	河北　直也	呼吸器外科
	外来医長	助教	井上　寛章	乳腺外科
		特任助教	藤原　聡史	食道外科
		助教	三崎　万理子	甲状腺外科、乳腺外科
		特任助教	笹　聡一郎	乳腺外科
		特任助教	乾　友浩	乳腺外科、緩和ケア
呼吸器外科	科長	教授	滝沢　宏光	肺癌・縦隔・胸壁疾患、気管支鏡診断・治療、甲状腺疾患
	副科長	准教授	鳥羽　博明	肺癌・縦隔・胸壁疾患、気管支鏡診断・治療、肺移植、再生医療
	総務医長	講師	井上　聖也	食道外科
	病棟医長	講師	河北　直也	肺癌・気管支鏡診断・低侵襲外科治療
	外来医長	助教	宮本　直輝	呼吸器外科
		特任助教	森下　敦司	呼吸器外科
		特任助教	坂本　晋一	呼吸器外科
		特任助教	住友　弘幸	呼吸器外科
		教授	近藤　和也	肺癌・縦隔・胸壁疾患、胸腺腫、発癌、重症筋無力症、リンパ節転移、気管支鏡診断、光線力学的治療、術後化学療法
泌尿器科	科長	准教授	高橋　正幸	泌尿器科疾患全般、泌尿器科悪性腫瘍、小児泌尿器科
	副科長・外来医長	講師	山口　邦久	泌尿器科疾患全般、腎移植
	総務医長	講師	布川　朋也	泌尿器科疾患全般、泌尿器科悪性腫瘍
		准教授	山本　恭代	泌尿器科疾患全般、排尿機能、女性泌尿器科
	病棟医長	助教	楠原　義人	泌尿器科疾患全般、前立腺小線源治療
		助教	大豆本　圭	泌尿器科疾患全般、性機能障害、男性不妊症
		助教	佐々木　雄太郎	泌尿器科疾患全般、泌尿器科悪性腫瘍
消化器・移植外科	科長	教授	島田　光生	消化器全般(特に肝胆膵領域、肝移植)、鏡視下手術
	副科長	准教授	森根　裕二	肝胆膵外科、肝移植
	総務医長	講師	齋藤　裕	肝胆膵外科、肝移植
	病棟医長	特任准教授	柏原　秀也	消化管外科、鏡視下手術、ロボット手術
	外来医長	助教	中尾　寿宏	消化管外科、鏡視下手術、ロボット手術
		教授	岩田　貴	消化管外科、鏡視下手術、癌化学療法
		講師(病院教授)	石橋　広樹	新生児外科、小児外科全般、鏡視下手術
		特任教授	池本　哲也	肝胆膵外科、膵・膵島移植
		特任教授	吉川　幸造	消化管外科、鏡視下手術、ロボット手術
		助教	徳永　卓哉	消化管外科、鏡視下手術、ロボット手術
		助教	西　正暁	消化管外科、鏡視下手術、ロボット手術
		講師	高須　千絵	消化管外科、鏡視下手術、ロボット手術
		特任助教	山田　眞一郎	肝胆膵外科、肝移植
		特任助教	和田　佑馬	消化管外科、鏡視下手術、ロボット手術
		特任助教	寺奥　大貴	肝胆膵外科、鏡視下手術
		特任助教	古川　雅登	消化管外科、鏡視下手術
		特任助教	良元　俊昭	消化管外科、鏡視下手術、ロボット手術
		特任助教	脇　悠平	消化管外科、鏡視下手術
		特任助教	野間　隆礼	消化管外科、鏡視下手術
小児外科・小児内視鏡外科	科長・外来医長	講師(病院教授)	石橋　広樹	小児外科全般
	副科長・総務医長・病棟医長	特任助教	森　大樹	小児外科全般

感覚・皮膚・運動機能科

眼科

[外来]tel.088-633-7161　[外来]fax.088-633-7488
[医局]tel.088-633-7163　[医局]fax.088-631-4848

眼は直径約24mmの小さな器官ですが、QOLに直結するとても重要な部分です。私達は眼科全般にわたり常に最新の技術を取り入れ診断、治療、予防などに取り組んでいます。

診療体制

外来患者数は1日平均約100人、手術件数は年約1000例行っています。網膜・硝子体、角膜・角膜移植、緑内障、斜視・弱視、眼瞼・眼窩、ぶどう膜の各専門外来を設け診察にあたっています。

治療方針

担当医と各専門外来スタッフが外来から入院まで一貫して受け持ち、詳細に検討した上で治療方針を決めています。

得意分野・対象疾患

■網膜硝子体疾患：25ゲージ小切開硝子体手術をいち早く取り入れ、年間400例前後を施行し優れた成績を収めています。特に糖尿病網膜症に対する高難度の手術では本邦のトップクラスです。また、加齢性黄斑変性に対する光線力学療法や抗新生血管薬の硝子体内投与も行っています。

■角膜疾患：角膜感染症の診断と治療、角膜内皮移植や最新の角膜移植を行っています。

■緑内障：点眼治療やレベルの高い手術（年間約80例）を行っています。

■斜視弱視：斜視手術や眼鏡装用による斜視・弱視の治療、ロービジョンケアを行っています。

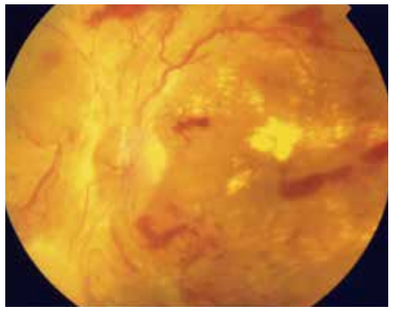
■ぶどう膜炎：原田病やベーチェット病、難治性の眼内炎症に対し、入院を含む積極的な治療を行っています。

■眼瞼眼窩・涙道疾患：鼻涙管閉塞や眼窩壁骨折、腫瘍などに対し手術治療を行っています。

■白内障：日帰り手術のほか、入院手術も行っています。

主な検査

蛍光眼底造影、光干渉断層計、角膜形状解析、視野検査、斜視検査など



増殖糖尿病網膜症

硝子体手術風景

感覚・皮膚・運動機能科

整形外科

[外来]tel.088-633-7237　[外来]fax.088-633-7484
[医局]tel.088-633-7240　[医局]fax.088-633-0178

整形外科は運動器全般を幅広く扱う診療科です。脊椎脊髄疾患・スポーツ障害・関節疾患・骨軟部腫瘍など筋・骨格系にかかわるすべての疾患に対応いたします。大学病院では、手術療法を中心に取り組んでおりますが、それ以外に、原因不明の脊椎や関節の痛みやしびれの原因検索も行っております。

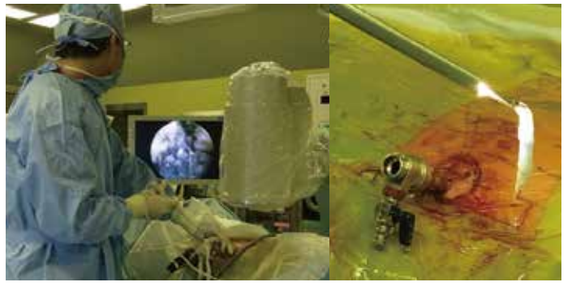
診療体制・治療方針

我々の基本姿勢は、まず最小侵襲手術です。身体に優しい内視鏡手術を得意とします。脊椎脊髄（腰痛、手足のしびれ）に加え、各関節痛（肩・肘・手・股・膝・足）の治療を内視鏡で行っております。特に、腰痛治療に対する局所麻酔・全内視鏡FESS手術（8mm切開）を行える施設は国内でも限られております。昨年は最先端技術である拡張現実AR顕微鏡および脊椎ロボットを導入しました。次に精度の高い手術です。特に人工関節手術では、人工膝関節手術ロボット及び人工股関節手術ロボットも導入しております。さらに、骨・軟部悪性腫瘍治療のような学際領域は得意分野であり、抜群のチーム医療で良好な成績を収めております。また、手術後リハビリには、国内大学病院としては初めてピラティス・コントロロジーを導入しております。

得意分野・対象疾患

1：脊椎・脊髄外科：椎間板ヘルニア、狭窄症、すべり症、側弯症などの脊柱変形、脊髄腫瘍
2：スポーツ医学：野球肘・野球肩、靭帯損傷、軟骨損傷、腰椎分離症
3：関節外科：変形性関節症、関節リウマチ
4：骨・軟部悪性腫瘍全般
5：ピラティス・コントロロジー・リハビリテーション

整形外科スタッフ



最少侵襲FESS手術とヘルニア摘出の実際

感覚・皮膚・運動機能科

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

[外来]tel.088-633-7166　[外来]fax.088-633-7489
[医局]tel.088-633-7169　[医局]fax.088-633-7170

当科では、耳鼻咽喉科・頭頸部外科の全ての担当疾患に対して国際レベルの診断と治療を行い、患者さんが幸せになり満足を得る医療の実践に努めています。

診療体制

初診日は火曜日と木曜日、再診日は月曜日、水曜日、金曜日です。また、以下の専門外来を設けて、専門的な診断と治療を行っています。難聴外来、めまい外来、鼻・アレルギー外来、腫瘍外来、顔面神経外来、味覚外来、睡眠時無呼吸外来、唾液腺外来、音声外来、補聴器外来、小児難聴外来、小児言語外来

治療方針・得意分野・対象疾患

難聴に対しては、内視鏡を用いた低侵襲の鼓室形成術や人工内耳手術を行っています。難治性のメニエール病に対しては中耳加圧療法や内リンパ嚢開放術を行っています。また、難治性めまいに対しては、前庭リハビリテーションを行っています。副鼻腔炎に対してはナビゲーションを用いた内視鏡下鼻副鼻腔手術、アレルギー性鼻炎に対しては舌下免疫療法やレーザー手術や後鼻神経切断術を行っています。頭頸部癌に対しては、免疫チェックポイント阻害薬の投与、免疫療法手術・放射線治療・化学療法による集学的治療を行っています。顔面神経麻痺後の後遺症に対しては、ボツリヌス毒素療法やミラーバイオフィードバック療法などのリハビリを行っています。難治性の味覚障害に対してはオリゴ糖を加えた亜鉛補充療法を行っています。唾液腺に関しては、耳下腺腫瘍の手術に加えてシェーグレン症候群の診断と治療を行っています。音声障害に対しては、声帯脂肪注入や被裂軟骨内転術などの音声改善手術を行っています。補聴器は、補聴器適合判定医が補聴器の適合を行っています。難聴児の早期発見と聾学校と協力した聴能訓練、小児の人工内耳手術を行っています。小児の言語訓練も行っています。

感覚・皮膚・運動機能科

皮膚科

[外来]tel.088-633-7153　[外来]fax.088-633-7486
[医局]tel.088-633-7154　[医局]fax.088-632-0434

■赤ちゃんからご高齢者の皮膚と粘膜（口腔、陰部等）に生じる病気やトラブルを診療します。皮膚におこった変化は全て診させていただき、一緒になって治療法を探してゆきましょう。

■他臓器疾患の症状が皮膚に出ることがあり、「皮膚は内臓の鏡」と言われています。私達はこのことを常に頭において患者さんを診させていただきます。

診療体制

初めての患者さんは、外来で皮膚科専門医が診察の上、外来治療か入院治療かを決めます。その後、皮膚科全員で検討会を行い、専門に分かれて集学的な治療をさせていただきます。

治療方針

まず診断を確定しなければなりません。そのためにも皮膚科独自の検査をすることがありますが、全て内容をお話しした上で行います。診断確定後は、患者さんに負担や侵襲の少ない最良・最新の医療を患者さんと一緒になって全員で探し続けます。私達は、診断とは“診断名をつける”ことではなく“なぜその患者さんに、その皮膚変化が出たかに結論を出すこと”と思っています。入院の場合は、十分な知識と技術を持ったやさしい看護師さんも参加しての治療となります。根気強く治療法を探し続けましょう。

得意分野・主な検査

全ての皮膚疾患をみせていただきますが、現在、皮膚科全員で集中的に取り組んでいるものは

①皮膚癌のマネジメント：皮膚癌全て、特に黒色腫の集中・集学的治療
②治りにくい皮膚疾患の先進的治療：水疱症、角化症、遺伝病
③全身性皮膚疾患の集学的治療：各種膠原病、他臓器癌、紅皮症
④生物製剤による治療：難治性乾癬、関節症性乾癬、アトピー性皮膚炎
⑤急性の皮膚障害の集中チーム治療：熱傷、重症薬疹、重症感染症
⑥特殊光線療法：乾癬、アトピー性皮膚炎、皮膚T細胞リンパ腫
⑦脱毛症：円形脱毛症、男性型脱毛症の治療　・・・・・・などです。

皮膚科全員が診療に参加します。

感覚・皮膚・運動機能科

形成外科・美容外科

[外来]tel. 088-633-7047
[医局]tel. 088-633-7296

形成外科は、機能だけでなく形態の改善を治療する診療科です。その診療対象は、体表の先天異常、外傷・熱傷、悪性および良性皮膚(軟部)腫瘍、ケロイド・肥厚性瘢痕、血管腫・血管奇形、母斑(あざ)など多岐にわたります。

診療体制

形成外科一般の外来は、火、木、金曜日の午前中に行っています。また、専門外来として青あざのレーザー治療とリンパ浮腫外来を月曜日の午前、赤あざのレーザー治療を水曜日の午前・午後、ケロイド外来を水曜日の午前、美容外来を水曜日の午後に行っています。診療は形成外科指導医および専門医が中心となって行っており、入院診療は主に手術治療が対象となりますが、患者さん個々の病態や希望を考えながら非手術的な方法を選択する場合もあります。

治療方針・得意分野

■**乳房再建**:乳がん患者のQOLを考えてシリコンインプラントや自家組織による乳房再建を行っています。

■**組織移植**:植皮・皮弁術やマイクロサージャリーの技術を応用した遊離複合組織移植による組織欠損の再建を行っています。

■**頭蓋顎顔面外科**:先天異常や骨折による顔面の変形に対して、骨切り移動術などの技術を用いて正常な状態に近づけるべく治療を行っています。

■**唇裂・口蓋裂**:2020年4月から口唇口蓋裂センターを開設し、産科、小児歯科、矯正歯科、耳鼻咽喉科、小児科、言語聴覚士などと連携をとりながら総合的な治療を行っています。

■**母斑、色素異常**:いちご状血管腫、赤あざ、太田母斑・異所性蒙古斑などの青あざ、加齢性色素斑(シミ)などに対してレーザー治療を行っています。なお、いちご状血管腫で大きくなって目立つ可能性があるものについては、より効果のある内服治療を積極的に行っています。

■**難治性潰瘍**:褥瘡や、糖尿病足壊疽や虚血による足潰瘍の治療も行っています。創傷治癒に関する知識、技術を駆使して救肢・温存の方向で治療を進めています。

対象疾患

唇裂・口蓋裂、小耳症、多指症(手足の指)などの先天異常、顔面骨骨折や熱傷などの外傷、良性・悪性の皮膚(軟部)腫瘍、ケロイド、外傷後やがん切除後の組織欠損の再建、乳房再建、血管腫・太田母斑・シミなどの色素異常、褥瘡や虚血・糖尿病による足潰瘍などの難治性潰瘍、リンパ浮腫など。

主な検査

皮膚腫瘍に対する病理組織検査や画像検査(エコー・CT・MRI・PET-CT)や、足潰瘍に対する血行状態の精査(エコー・皮膚灌流圧測定・造影CT、血管造影)など。

診療科名	役職	職名	氏名	専門分野
整形外科	科長	教授	西良　浩一	脊椎・脊髄外科、スポーツ医学
		特任教授	酒井　紀典	脊椎・脊髄外科、スポーツ医学
	副科長	准教授	浜田　大輔	関節外科、リウマチ
	総務医長	特任准教授	西庄　俊彦	骨・軟部腫瘍外科
	外来医長	特任准教授	山下　一太	脊椎・脊髄外科
		特任准教授	和田　佳三	関節外科
	病棟医長	講師	手束　文威	脊椎・脊髄外科
		特任講師	藤谷　順三	健康運動科学
		講師	土岐　俊一	骨・軟部腫瘍外科
		特任助教	眞鍋　裕昭	脊椎・脊髄外科
		助教	森本　雅俊	脊椎・脊髄外科
		特任助教	玉置　康晃	関節外科
		特任助教	岩瀬　穣志	スポーツ医学
		助教	杉浦　宏祐	脊椎・脊髄外科
		特任助教	竹内　誠	脊椎・脊髄外科
		特任助教	大道　泰之	整形一般
		助教	川口　真司	関節外科
		助教	玉置　俊輔	脊椎・脊髄外科
		特任助教	横山　賢二	スポーツ医学
皮膚科	科長	教授	久保　宜明	遺伝病、皮膚腫瘍、脱毛症、アトピー性皮膚炎
	副科長	准教授	村尾　和俊	膠原病、皮膚癌、熱傷
	総務医長	助教	仁木　真理子	湿疹・皮膚炎、感染症、乾癬
	外来医長	助教	林　理恵	水疱症、感染症
	病棟医長	助教	川島　啓道	乾癬、薬疹、水疱症
		助教	山﨑　佳那子	接触皮膚炎
形成外科・美容外科	科長	教授	橋本　一郎	形成外科全般、乳房再建、顔面神経麻痺
	副科長	准教授	安倍　吉郎	マイクロサージャリー、四肢先天奇形、皮膚悪性腫瘍、リンパ浮腫、頭頸部再建
	総務医長	助教	峯田　一秀	唇裂、口蓋裂、美容外科、ケロイド、顔面骨骨折
	外来医長	助教	山下　雄太郎	下肢救済、リンパ浮腫、マイクロサージャリー
	病棟医長	特任助教	長坂　信司	マイクロサージャリー、頭頸部再建

診療科名	役職	職名	氏名	専門分野
眼科	科長	教授	三田村　佳典	網膜硝子体疾患、糖尿病、加齢黄斑変性
	副科長	講師	四宮　加容	斜視・弱視、眼瞼・眼窩、涙道、ロービジョン
	総務医長	講師	江川　麻理子	ぶどう膜炎
	病棟医長	講師	村尾　史子	網膜硝子体疾患、眼瞼、眼窩、涙道、ロービジョン、視覚認知
	外来医長	助教	山中　千尋	緑内障
		助教	仙波　賢太郎	網膜硝子体疾患
		助教	仁木　昌徳	眼科一般、網膜硝子体疾患、角膜、結膜
		助教	赤岩　慶	眼科一般、網膜硝子体疾患
		助教	猪本　尚毅	眼科一般
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	科長	教授	北村　嘉章	鼻科学、アレルギー、頭頸部腫瘍
	副科長・教育主任	准教授	佐藤　豪	平衡神経科学、耳科学
	総務医長	講師	東　貴弘	顔面神経、耳科学
	外来医長	助教	神村　盛一郎	鼻科学、アレルギー
	病棟医長	講師	近藤　英司	咽喉頭科学、小児耳鼻咽喉科学
		助教	金村　亮	頭頸部腫瘍、咽喉頭科学
		助教	庄野　仁志	口腔咽頭科学

脳・神経・精神科

脳神経外科

[外来]tel.088-633-7147　[外来]fax.088-633-7485
[医局]tel.088-633-7149　[医局]fax.088-632-9464

対象疾患は脳・脊髄・末梢神経のすべての神経疾患で外科的治療を要するものです。また他病院での治療内容に対するセカンドオピニオンのご相談についても承っております。

診療体制

新患・再来外来を月・水曜日、専門外来を木曜午後に行っています。火・金曜日が手術日です。20名のスタッフと専攻医・医員がチームを編成し、診療にあたります。うち、日本脳神経外科学会専門医17名、日本脳卒中学会専門医7名、日本脳神経血管内治療学会専門医7名、日本てんかん学会専門医1名がいます。

治療方針

大学病院ならではの最新の診断及び治療機器を駆使し、豊富な専門スタッフが診断治療にあたり、あらゆるオプションを提示し、患者さんに最適の治療方法を選択するよう心がけています。

得意分野

各種脳腫瘍の外科的治療及び後療法(化学療法、放射線療法):特に治療困難な頭蓋底腫瘍、悪性脳腫瘍。

脳血管障害の手術(頚動脈狭窄症に対する内膜剥離手術、脳動脈瘤に対する開頭クリッピング手術、脳動静脈奇形・その他血管奇形に対する開頭手術、内頚動脈閉塞症・もやもや病に対するバイパス手術)

脳血管内治療(頚動脈狭窄症に対するステント留置術、脳動脈瘤に対するコイル塞栓術、硬膜動静脈瘻・脳動静脈奇形に対する血管内治療)

機能的疾患(三叉神経痛、顔面痙攣に対する神経血管減圧手術、パーキンソン病をはじめとする不随意運動に対する定位脳手術、難治性疼痛に対する脊髄刺激療法など)

薬剤訴求性てんかんに対するビデオ脳波モニタリングや手術(焦点切除術、頭蓋内電極留置術、脳梁離断術、迷走神経刺激療法など)

脊椎・脊髄疾患、末梢神経障害に対する手術(脊髄腫瘍、脊椎変性疾患、脊髄血管奇形、手根管症候群など)

対象疾患

脳神経外科で扱う疾患全体を対象とします。脳腫瘍(髄膜腫、神経膠腫、聴神経腫瘍、下垂体腺腫、転移性脳腫瘍など)、脳血管障害(頚動脈狭窄症、脳動脈瘤、内頚動脈閉塞症・もやもや病、脳動静脈奇形、硬膜動静脈瘻、海綿状血管腫など)、機能的疾患(三叉神経痛、顔面痙攣、パーキンソン病をはじめとする不随意運動など)、てんかん、脊椎・脊髄疾患、水頭症、先天奇形などに対する外科的治療を行っています。

主な検査

MRI、CT、超音波エコー、脳血管撮影、SPECT、PET、脳波、脊髄造影、神経根ブロック、ビデオ脳波モニタリング、Wadaテストなど。

脳・神経・精神科

麻酔科

[外来]tel.088-633-7179
[医局]tel.088-633-7181

麻酔科の業務としては、安全で快適な手術環境を提供する麻酔管理のほか、難治性疼痛に対して特殊治療を施す、ペインクリニックも行っています。

診療体制・治療方針

手術麻酔管理では、麻酔の専門医（日本麻酔科学会指導医7名、同学会専門医18名、認定医6名が在籍）と研修医のペアで事前に麻酔計画を立て、科内で十分な検討を行った後、最新の機器を用いて全身麻酔や区域麻酔を行っています。術中は常に注意深い観察を行い、異常発生時には迅速かつ適切な処置を施すことで患者の安全を確保します。また日帰り手術や前日入院といった短期入院、さらに合併症を有する症例などに対しては、あらかじめ麻酔科外来にて詳細な情報収集と入院前チェックを行うことで、周術期に起こりうる事故を予測しその発生を予防します。

ペインクリニックでは、当院は日本ペインクリニック学会認定病院であり、1名の学会専門医を中心に疼痛緩和のための高度な治療を実践しています。ポリシーとして、患者との対話を重視し、様々な観点から個々のニーズに応じた、柔軟で満足度の高い診療を行うよう心がけています。

得意分野・対象疾患

手術麻酔管理については、あらゆる麻酔に関する相談や質問に応じるとともに、患者負担を軽減すべく、術前入院の短縮や術後疼痛管理にも配慮した麻酔を行っています。

ペインクリニックでは、全ての疼痛を有する疾患、また顔面神経麻痺や突発性難聴、手掌多汗症、血行不全などの神経機能異常に基づく非疼痛疾患なども対象に、神経ブロック療法や薬物療法、理学療法、手術療法、カウンセリングといった様々な治療手段で改善を図っています。特に帯状疱疹に伴う痛みに対しては、初期に行う神経ブロックとその後の特殊薬物療法や電気刺激療法の組み合わせによる、当科独自の治療プログラムにて良好な結果を得ております。他にも慢性の頭痛や頸肩上肢痛、腰下肢痛、関節痛といった筋骨格系疾患などにも神経ブロック療法が有効なことが多く、これにより日常生活の向上や早期の社会復帰が期待できます。

挿管操作

脳・神経・精神科

精神科神経科・心身症科

[外来]tel.088-633-7128　[外来・医局]fax.088-633-7480
[医局]tel.088-633-7130

統合失調症、気分障害（躁うつ病、うつ病）、不安障害（パニック障害、強迫性障害など）、てんかん、認知症、摂食障害、発達障害や不登校などに対して専門医が幅広く診療しています。

診療体制

一般外来は月曜から金曜まで毎日、原則として午前中に行っています。専門医による児童思春期外来の初診は、水曜日と木曜日に受けつけています。明るく開放的な雰囲気の病棟で入院治療を行っています。医師をはじめ、看護師、臨床心理士、精神保健福祉士、作業療法士等の多職種でチームを組んで治療にあたっています。

治療方針

エビデンスに基づいた合理的な薬物療法と、精神療法や精神科リハビリテーションなどの心理社会的治療を偏りなく組み合わせて行っています。必要な症例には、麻酔科医と協力して、けいれんを起こさない安全な電気けいれん療法も施行しています。内科や外科などのほかの診療科との連携にも力を入れており、精神腫瘍学の立場から緩和ケアチームの一員としても貢献しています。身体合併症の治療を同時に必要とする認知症などの老年期精神疾患の診療も得意としています。さらに、デイケアや作業療法など社会復帰に向けた精神科リハビリテーションの分野にも、積極的に取り組んでいます。

得意分野

統合失調症、気分障害、不安障害、認知症、てんかんの診断と合理的薬物療法、デイケアや作業療法などの精神科リハビリテーション、発達障害など児童思春期症例の診療と専門的リハビリテーション、必要な症例に対する修正（けいれんがなく安全な）電気けいれん療法や反復経頭蓋刺激療法、緩和ケアと精神腫瘍学

対象疾患

統合失調症、躁うつ病、うつ病、パニック障害、強迫性障害、社交不安障害、認知症、てんかん、発達障害や不登校などの児童思春期症例

主な検査

脳波、CT、MRI、SPECT、光トポグラフィー検査、認知機能検査、心理検査

令和五年四月一日現在［最新情報は徳島大学病院ホームページでご確認ください］

診療科名	役職	職名	氏名	専門分野
脳神経外科	科長	教授	高木　康志	脳血管障害、脳腫瘍
	副科長	准教授	兼松　康久	脳血管内治療、脳血管障害
	総務医長	講師	島田　健司	脳血管内治療、脳血管障害
	外来医長	助教	曽我部　周	脳血管障害、脳血管内治療
	病棟医長	助教	藤原　敏孝	てんかん、脳腫瘍
	教育主任医長	講師	中島　公平	脳腫瘍、神経内視鏡
		特任講師	多田　恵曜	てんかん
		特任准教授	森垣　龍馬	機能神経外科
		特任講師	原　慶次郎	脳腫瘍、脊椎・脊髄の外科
		特任助教	三宅　一央	機能神経外科、脊椎・脊髄の外科、脳血管障害
		助教	高麗　雅章	脳血管障害、脳血管内治療
		特任助教	鹿草　宏	脳神経外科一般
		特任助教	山口　泉	脳血管障害、脳血管内治療
		特任助教	小山　広士	脳神経外科一般
麻酔科	科長	教授	田中　克哉	麻酔
	副科長・病棟医長	准教授	角田　奈美	麻酔
	総務医長	助教	笠井　飛鳥	麻酔
	外来医長	助教	川西　良典	麻酔
	教育主任医長	助教	石川　雄樹	麻酔
		助教	木下　倫子	麻酔
		助教	米澤　宏記	麻酔
		特任助教	福田　浩平	麻酔
		特任助教	本多　康人	麻酔
		特任助教	植村　勇太	麻酔
精神科神経科・心身症科	科長	教授	沼田　周助	統合失調症、気分障害、認知症
	副科長	准教授	中瀧　理仁	気分障害、心身症、てんかん
	総務医長	講師	梅原　英裕	精神疾患、児童思春期疾患
	外来医長	助教	富岡　有紀子	精神疾患、心身症、漢方治療
	病棟医長	助教	山田　直輝	精神疾患、児童思春期疾患
		助教	中山　知彦	精神疾患、心身症
		特任助教	松本　康平	精神疾患、心身症
		特任助教	青井　駿	精神疾患、心身症
		特任助教	吉田　朋広	精神疾患、心身症、産業メンタルヘルス
		特任助教	松本　唯	精神疾患、心身症
		教授	友竹　正人	精神疾患、心身症
		教授	住谷　さつき	精神疾患、強迫性障害
		教授	井﨑　ゆみ子	精神疾患、心身症、児童思春期疾患

小児・周産・女性科

小児科

[外来]tel.088-633-7132　[外来]fax.088-633-7481
[医局]tel.088-633-7135　[医局]fax.088-631-8697

新生児から思春期までの幅広い小児疾患全体をカバーした外来・入院体制を整えており、腎臓・自己免疫疾患、神経、循環器、血液・腫瘍、内分泌・代謝、アレルギー、および未熟児・新生児等の各疾患専門診療グループがあります。

診療体制

外来においては、初診・再診、専門診療を担当する各々の専門医が配置され、最新の高度医療を提供して、県内外のこどもたちが安心して治療を受けられる体制となっています。また、関連病院小児科と連携して小児救急医療の中核施設としても機能しています。さらに、学校検尿、心電図検診、心の問題など、こどもたちのすこやかな成長・発達を守る健康支援活動にも力を注いでいます。

治療方針

入院患者さんの診療は、複数の担当医及び診療グループが責任を持って行います。治療方針は、専門領域の複数の医師が中心となって様々な角度から検討し決定されます。

得意分野

【腎臓・自己免疫疾患】ネフローゼ症候群や腎炎など腎臓病の診察と治療を行っています。また、全身性エリテマトーデスや若年性特発性関節炎などの自己免疫疾患の診療も行っています。

【神経】てんかん、発達障害、および他の種々の神経筋疾患の診断と治療を行っています。

【循環器】超音波検査、CT検査、心臓カテーテル検査などを駆使し、先天性心疾患などの小児心臓病の迅速な診断と治療を行っています。

【血液・腫瘍】白血病などの小児血液疾患や、脳腫瘍などの小児がんの治療を行っています。造血幹細胞移植などの集学的治療も積極的に行っています。

【内分泌・代謝】1型糖尿病を中心に県内の小児糖尿病の大半の治療や教育を積極的に行っております。また、成長障害をはじめ多岐にわたる小児内分泌疾患の診断治療も行っております。

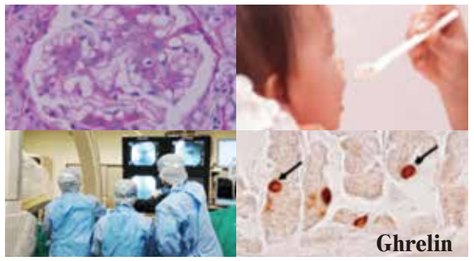
【アレルギー】食物アレルギーや気管支喘息、アトピー性皮膚炎を中心としたアレルギー疾患の診療を行っています。

【未熟児・新生児】周産母子センターNICUでは、日夜を徹して病的新生児の治療を行っています。外来では、赤ちゃんのすこやかな成長を願って、きめ細やかなケアを提供しています。

【子と親のこころ診療室】外傷後ストレス障害(PTSD)、心身症、不登校などを有する子どもの診察を行っています。

対象疾患

小児におけるあらゆる疾患です。特に一般病院から御紹介頂きます患者さんに対する先進医療・特殊医療に力を注いでいます。



小児・周産・女性科

産科婦人科

[外来]tel.088-633-7175
[医局]tel.088-633-7177

産科婦人科は、四国東部の産婦人科医療の拠点として、また医学教育の中心として、一般医療から高度医療を幅広く担当しています。診療体制は、生殖医療部門・周産期医療部門・婦人科腫瘍部門・女性医学部門の4部門からなります。

診療体制

専門外来ではそれぞれの分野の専門医師が診療を行い、入院診療においては指導医の下、担当医が入院患者の診療を行っています。

治療方針

指導医と担当医の議論だけでなく、臨床カンファレンスをおこない治療方針を決めています。他科疾患がある場合は、他科とも合同カンファレンスを行い決定しています。

得意分野

①生殖医療部門：一般不妊症、生殖補助医療

体外受精を日本で3番目に成功させるなど、不妊診療は全国的に高く評価され、先進的な診療と研究を行っています。特に、排卵誘発治療、生殖補助医療、不育症治療、腹腔鏡下手術などに全国でトップレベルの医療を展開しています。生殖医療研修施設となっています。

②周産期医療部門：胎児超音波診断、胎児治療、合併症妊娠、異常妊娠管理

MFICU6床、NICU9床、GCU12床で総合周産期医療センターに指定され、実践を重視した高度周産期医療を展開しています。現在、周産期・新生児学会の専門医制度基幹施設になっています。

③婦人科腫瘍部門：悪性腫瘍疾患手術、化学療法、ロボット支援下手術

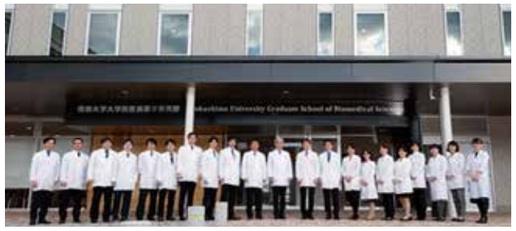
婦人科癌に対するトップレベルの手術療法、化学療法を行っています。治療成績は全国水準を超え、また化学療法では徳島県下の中核病院と連携した治療を行っています。特に最近の若年患者の増加で、子宮頸癌の初期病変にレーザー蒸散を積極的に導入しています。

④女性医学部門：子宮内膜症・子宮筋腫治療、乳癌検診、更年期障害、女性内科

思春期から更年期、老年期にいたるまで、女性のトータルヘルスケアを重視した診療を行っています。特に、子宮内膜症や子宮筋腫に対する腹腔鏡下手術、ロボット支援下手術、更年期におけるホルモン補充療法に積極的に取り組んでいます。また、当科における乳癌検診への取り組みは、新しい産婦人科医療のモデルケースとして注目されています。

対象疾患

一般不妊、不育症、生殖補助医療、内分泌疾患、正常妊娠、異常妊娠および分娩、婦人科良性、悪性腫瘍、更年期障害、骨粗鬆症、遺伝相談など



スタッフ一覧

令和五年四月一日現在［最新情報は徳島大学病院ホームページでご確認ください。］

診療科名	役職	職名	氏名	専門分野
小児科	科長	教授	漆原　真樹	小児腎臓病学
	副科長	講師	杉本　真弓	小児アレルギー学
	総務医長	講師	森　達夫	小児神経学
	外来医長	助教	鈴江　真史	新生児学
		病院長	香美　祥二	小児腎臓病学
		教授	森　健治	小児神経学
		特任教授	早渕　康信	小児循環器学
		講師	中川　竜二	新生児学
		特任講師	須賀　健一	新生児学
		特任助教	小谷　裕美子	小児内分泌代謝学
	病棟医長	講師	岡村　和美	小児血液腫瘍学
		特任助教	藤岡　啓介	小児腎臓学
		助教	本間　友佳子	小児循環器学
		助教	田山　貴広	小児神経学
		特任助教	中野　睦基	小児神経学
産科婦人科	科長	教授	岩佐　武	生殖医学
	副科長	准教授	西村　正人	婦人科腫瘍学
	総務医長	講師	吉田　加奈子	女性医学
	外来医長	助教	香川　智洋	婦人科腫瘍学
	病棟医長	助教	鎌田　周平	生殖医学
		特命教授	苛原　稔	生殖医学、女性医学
		教授	安井　敏之	女性医学
		准教授	加地　剛	周産期医学
		特任教授	加藤　剛志	女性医学
		講師	山本　由理	生殖医学
		特任講師	木内　理世	女性医学
		講師	吉田　あつ子	周産期医学
		特任講師	峯田　あゆか	婦人科腫瘍学
		特任助教	白河　綾	周産期医学
		助教	乾　宏彰	婦人科腫瘍学
		特任助教	内芝　舞実	生殖医学
		特任助教	新垣　亮輔	婦人科腫瘍学

放射線科

放射線診断科

[外来]tel.088-633-9284　[外来]fax.088-633-7470
[医局]tel.088-633-7173　[医局]fax.088-633-7468

放射線科の対象疾患は全身すべてにわたり、専門も大きくわけて、診断(X線単純検査、CT、MRIなど)、核医学(PET、シンチグラフィ検査)、IVR(血管内治療など)に分かれます。

診療体制

CTおよびMRI検査やX線診断、PET、核医学検査は休日を除くほぼ毎日行っており、IVRは週3日行っています。

IVRは動注化学療法、塞栓術、生検など、血管造影等による診断や治療を中心とした部門です。IVRは局所麻酔で施行でき、穿刺部位から挿入したカテーテルなどを画像で確認しながら目的部位に誘導し局所の診断、治療を行います。

核医学では診断分野以外に、体内に放射線を出す薬剤を投与するような治療法(内照射療法)も行っています。

治療方針

IVRでは他の診療科や他の医療機関からの依頼を受けて行うことが多く、専門スタッフを中心に複数のスタッフで適応や治療方法を検討しています。

得意分野・対象疾患

画像診断は全身の検査をカバーしており、各部位や画像検査法にそれぞれのサブスペシャリティーを有した画像診断医が対応しています。

IVRでは頭頸部の悪性腫瘍に対する動注化学療法は徳島県では最多の治療件数を有しています。また、血管撮影装置とCT装置が一体となったIVR-CT装置を駆使し、日常の診断や治療の精度を高めています。

核医学では、放射性同位元素を用いた脳、心臓、肝臓、腎臓、甲状腺、副甲状腺、骨などの様々な検査に対応しています。シンチグラフィ検査では、県内唯一のSPECT/CT装置を有し、より明瞭で精度の高い検査を行えるようになっています。また、2台のPET/CT装置にて全国の大学病院でもトップクラスの検査数のPET/CT検査を行っています。

放射線科

放射線治療科

[外来]tel. 088-633-9284　[外来]fax.088-633-7470
[医局]tel. 088-633-7173　[医局]fax.088-633-7468

放射線治療を必要とする全ての臓器がんに対して、ハイテク放射線診療機器を駆使した最先端の医療を提供しています。放射線治療装置は、高精度外部放射線装置(リニアック)3台、前立腺がん・子宮がんなどを対象とした密封小線源治療システムを各1式設置しており、年間約1,000名の放射線治療患者を受け入れています。放射線治療専門の技術者である診療放射線技師7名・放射線治療品質管理士2名が常勤し装置の精度管理を行っており、高レベルの品質保証に基づいた放射線治療を行っています。

診療体制

放射線治療専門医・癌治療認定医である医師・歯科医師5名で診療を行っています。新規患者さんの紹介日は火～金曜日に設けており、県外を含めて院外からも多くの患者さんを受け入れています。新たに放射線治療を開始する患者さんに関しては、外来担当医師が初回診察をおこなった後、全てのスタッフが集まって行うカンファレンスで放射線治療の適応や方法について討議し、患者さんごとの適切な放射線治療方法を決定しています。

治療方針

疾患ごとに関連診療科と合同で行うカンファレンスの中で、患者さんに提示すべき適切な治療方針を決定します。最終的な決定は患者さんご本人の十分な理解に基づいたご意志によりなされます。

得意分野

頭頸部領域、肺がん・乳がん・食道がんなど胸部領域、前立腺がんなど泌尿器科領域、婦人科領域のがんに対して、関連診療科と連携し、チーム医療を行っています。放射線治療を必要とする全ての悪性腫瘍に対応しています。

対象疾患

ほぼ全ての臓器の悪性腫瘍となります。

主な検査

放射線治療で最も重要なことは正確な病巣位置の把握であり、そのため画像診断が主な検査法となります。放射線治療の最大の利点は身体の負担が小さいことであり、その方法を決定する検査においても可能な限り低侵襲の検査法を選択しています。

2020年から治療を開始した最新の外部放射線治療装置

スタッフ一覧

令和五年四月一日現在[最新情報は徳島大学病院ホームページでご確認ください。]

診療科名	役職	職名	氏名	専門分野
放射線診断科	科長	教授	原田　雅史	放射線診断・核医学一般
	副科長・外来医長	特任教授	新家　崇義	放射線診断・核医学
	総務医長	講師	竹内　麻由美	放射線診断(女性骨盤部領域)
		講師	音見　暢一	放射線診断・核医学
	病棟医長	講師	新井　悠太	放射線診断・IVR
		助教	松元　友暉	放射線技術
		助教	廣島　由夏	放射線診断
		教授	大塚　秀樹	放射線診断・核医学
		准教授	高尾　正一郎	放射線診断(骨軟部領域)
放射線治療科	科長	教授	生島　仁史	放射線治療
	副科長・病棟医長	准教授	川中　崇	放射線治療
	外来医長	講師	久保　亜貴子	放射線治療
	総務医長	助教	外礒　千智	放射線治療
		助教	工藤　隆治	放射線治療(口腔腫瘍)

歯科

むし歯科

[外来]tel. 088-633-7370
[医局]tel.088-633-7340

むし歯やそれに引き続いて起こる歯の神経や根の病気の治療を行うことにより歯を大切に“保存”し、その機能を回復・維持することで口腔、そして全身の健康増進に寄与することを目指しています。

診療体制

月曜日から金曜日の9:00から16:00まで、外来診療を行っています。診療は予約制ですが、月曜日、水曜日、金曜日は予診といって、初めて来られた(初診)方や他の医院から紹介された方、そして痛みがあって救急で来院された方も診ております。
救急などの場合を除き、それぞれの方に担当医を決めて、診療を進めて行きます。従って次回の診療予約の日は、担当の先生と相談して決めることになります。また、歯の根の治療などが終わり、補綴処置(クラウン、ブリッジ、入れ歯など)が必要な場合は、そしゃく科、かみあわせ補綴科へ紹介することとなります。

治療方針

むし歯は口腔内の細菌による感染症です。歯の細菌に侵された部分を除去した後、歯の形態と機能を回復するため、コンポジットレジンやセラミックなどを用いて審美性を重視した治療を取り入れています。
また、なるべく歯を削らず、歯髄(歯の神経)をできるだけ保存する、体に優しい低侵襲の治療(ミニマルインターベンション:MI)を治療方針としています。

得意分野

最新の歯質接着修復材料を用いたむし歯治療、冷たいものがよくしみる象牙質知覚過敏症の治療、MTAを用いた歯髄保存治療、実体顕微鏡下での精密な歯内治療(歯の根の治療)を得意としています。また、これらの治療に加えて、歯の形や色を良くする審美歯科治療としてホワイトニングやデジタル技術を活用したコンポジットレジン修復も行っています。

対象疾患

むし歯、象牙質知覚過敏症、歯の破折、歯髄炎(歯の神経の病気)、根尖性歯周炎(歯の根の病気)、歯の変色

主な検査

エックス線検査、歯髄電気診、温度診、電気抵抗値測定、歯周組織検査、歯の色調検査など

実体顕微鏡下での歯内治療

ホワイトニングのカウンセリング風景

歯科

歯周病科

[医局]tel.088-633-7344　[医局]fax.088-633-7345

歯周病科は歯周病の専門的な治療を行う診療室です。日本歯周病学会が認定し厚生労働省が認可した歯周病専門医の指導のもとで、歯周基本治療、歯周外科治療、歯周組織再生療法などを行っています。最近、全身と歯周病との深い関連が明らかにされつつあり、糖尿病に関連した歯周炎や薬物性歯肉増殖症の治療にも積極的に対応しています。また、むし歯由来の根尖性歯周炎の治療(感染根管治療)および歯内外科治療も行っています。

診療体制

初診患者の診察日は火曜日、木曜日、金曜日です。再来患者の診療は月曜日から金曜日まで毎日行っています。診療歯科医師は十数名(教授、准教授、講師、助教、医員、研修医)です。

治療方針

歯周基本治療が個々の歯科医師によって行われ、手術が必要な場合には症例検討会で検討した後、歯周外科治療が行われます。糖尿病や高血圧などの基礎疾患を伴う歯周病患者さんに対してはチームを組んで治療に当たっています。

得意分野

歯周外科治療および歯周組織再生療法。糖尿病関連歯周炎、薬物性歯肉増殖症、侵襲性歯周炎の診断と治療。

対象疾患

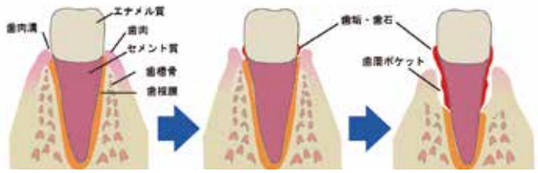
歯肉炎、慢性歯周炎(成人)、侵襲性歯周炎(若年者)、全身疾患関連歯周炎、薬物性歯肉増殖症、根尖性歯周炎。

主な検査

歯周組織検査(歯周ポケットの測定、歯の動揺度検査、歯肉出血検査など)、レントゲン検査、コーンビームCT検査、歯周病原細菌DNA検査。

術前

術後



健康な歯周組織　歯肉炎　歯周炎

歯科

そしゃく科

[医局]tel.088-633-7347　[医局]fax.088-633-7461

歯だけでなく口腔の硬組織・軟組織の欠損を人工物で補い、患者さんの審美、咀嚼、構音、嚥下といった口腔の形態と機能の回復・維持を目的に診療（補綴（ほてつ）治療）を行っております。また、日々進歩する歯科治療材料、技術、情報をいち早く取り入れた診療を心がけております。

診療体制

（公社）日本補綴歯科学会および（公社）日本口腔インプラント学会の専門医・指導医、（一社）日本老年歯科医学会の認定医・指導医を有するものが中心となって専門的な治療を行っています。専門性の高い医療水準を保ち、患者さん個々の病態に沿った治療を心掛けているため、診療は予約制としております。

治療方針

有床義歯治療や歯冠補綴治療、高齢者歯科治療、インプラント治療など、専門とするいずれの治療も高度な質を提供することを第一義として治療を行っています。また、各診療科と連携しながら一口腔単位で総合的な検査を行い、治療計画を提示します。欠損補綴の手法としてはさまざまな方法があるため、予め複数の治療法の選択肢を提示し、それらの長所、短所の説明を十分に行います。治療に際しては、知識と技術を最大限に提供し、患者さんのQoLの向上を目指します。

対象疾患・得意分野

■歯の一部の欠損や歯の欠損に対する補綴治療。とくに義歯
■歯科インプラント治療
■顎顔面の手術による顎や粘膜、顔面の大きな欠損に対する補綴治療
■先天異常や脳卒中などの中途障害に伴う口腔機能障害に対する歯科的対応
■デジタル技術を用いた補綴治療

主な検査

■口腔内エックス線画像検査：歯や歯の周囲の疾患の有無を調べるために撮影します。全ての補綴治療を行う上で診断の基本になるものです。
■口腔内写真：口腔内状態を客観的に判断し、その変化を確認するために撮影します。
■顎骨のCT：歯科インプラント治療の診断に必要です。インプラント専用のソフトウェアを用いて解析を行います。
■咬合・咀嚼検査：噛み合わせ状態や咀嚼能力の検査です。補綴治療前後の治療評価などに必要です。
■口腔機能の検査：口腔機能低下症の診断に必要な諸検査を行います。

インプラント治療（口腔内写真）

インプラント治療（インプラント義歯装着）

歯科

かみあわせ補綴科

[外来]tel.088-633-7370　[外来]tel.088-633-7371

虫歯になった歯に冠をかぶせたり、虫歯や歯周病で失った歯を、ブリッジや入れ歯などで修復することによって、咀嚼・嚥下・発音といった機能を回復し、さらには審美性を高めることでQuality of Lifeを高めることを目指した外来診療を行っています。

診療体制

初診日は原則的には火・木・金曜日です。2回目からの診療は予約制となります（救急はこの限りではありません）。
診療は一人の患者さんに対して一人の歯科医師が責任を持って行う担当医制ですが、診療科全体で症例を検討し、最適な診断と治療を実践しています。

治療方針

良く噛めることは、食の喜びを享受し、健康な生活を維持するためにとても重要です。『かみ合わせ補綴科』では、様々な修復物を最新の技法に基づいて製作し、熟練した技術をもって治療にあたり、最先端の測定機器で検証し、臨床の場にフィードバックすることを目指しています。

得意分野

補綴治療全般：冠やブリッジなど歯を削って金属やセラミックを用いて修復する治療（クラウンブリッジ）を専門としています。また入れ歯による治療（顎補綴も含みます）や顎関節症の治療、審美修復も行っています。
インプラント：口腔外科で埋入手術を行った人工歯根に連結する義歯の製作を行っています。
睡眠時無呼吸の治療：睡眠時無呼吸やいびきの患者さんに対して、下顎を前方に誘導することで気道の閉塞を防ぎ無呼吸を抑制するマウスピースを用いた治療を行っています。
歯科金属アレルギーの治療：歯科金属アレルギー外来でアレルギー陽性が確認された患者さんの金属修復物の除去治療を行っています。
スポーツによる歯の外傷予防：スポーツ時の歯の外傷を予防するため、患者さんの歯並びや噛み合わせに適した軟性のマウスピースの製作や口腔管理を行っています。

対象疾患

歯の欠損、審美不良、金属アレルギー、睡眠時無呼吸、顎関節症、顎欠損、歯ぎしり、スポーツによる歯の外傷予防

主な検査

歯科一般検査、顎機能検査、歯ぎしり検査

オールセラミッククラウンで作製した上顎側切歯（左:術前、右:術後）

睡眠時無呼吸の治療に用いる口腔内装置

顎運動測定風景

歯科

歯科放射線科

[外来]tel.088-633-7375
[医局]tel.088-633-7362

歯科放射線科は、口腔・顎・顔面領域に発生する様々な疾患、すなわち、むし歯や歯周病に始まり腫瘍・嚢胞・炎症・外傷等に至るまで幅広い疾患の画像診断を行っています。診療には、日本歯科放射線学会が認定する歯科放射線専門医あるいは指導医が担当しています。パノラマエックス線検査や口内法エックス線検査はもとより、CT検査に加え最近ではコーンビームCT検査も行っています。但し、CT検査、コーンビームCT検査やMRI検査等の一部の検査は、中央診療棟の施設を使って放射線科の医師と共同で診療を行っています。
また、一般の歯科医院で行われる矯正治療やインプラント治療のための検査や診断を行い、質の高い歯科医療が提供できるように努めています。

診療体制

初診および再診患者の診察日は月曜日から金曜日までの毎日です。診療を担当する歯科医師は4名（准教授、講師、助教、診療支援医師）です。尚、CT検査（コーンビームCT検査を除く）およびMRI検査等は、原則的には事前予約制で行っています。

治療方針

一部の口内法エックス線撮影を除いてCR（Computed Radiography）によりフィルムを使わない撮影環境が構築されています。それらは、診断用画像参照端末を使って読影が行われる一方で、画像を従来のフィルムやCD-Rで提供することも適宜可能となっています。診断が難しい症例等については、随時、症例検討会を行っています。

得意分野

口腔・顎・顔面領域の各種疾患の画像診断、顎関節疾患の画像診断。

対象疾患

口腔・顎・顔面領域の各種疾患、顎関節症。

主な検査

口内法エックス線検査、パノラマエックス線検査、頭部単純エックス線検査、頭部エックス線規格撮影。CT検査、コーンビームCT検査。超音波検査、MRI検査。

コーンビームCT撮影装置

診断用画像参照端末

歯科

矯正歯科

[医局]tel.088-633-7357　[医局]fax.088-633-9139

当科では上顎前突や反対咬合などの不正咬合の治療を、患者さんのニーズに応じて行います。また、種々の先天性疾患によって生じた不正咬合や、顎変形症に対する診療を、多くの専門診療科との連携のもとで行っています。

診療体制

一人一人の患者さんに対して特定の主治医が責任を持って診療にあたります。乳幼児期の口唇裂・口蓋裂患者さんの診療や、歯科矯正用アンカースクリューの埋入処置は特定の診療日と時間帯を設け、専門的な診療を行います。

治療方針

患者さんのご希望などの問診や、採得した資料をもとに症例検討会にて討議します。その結果をもとに、患者さん、保護者、主治医、科長が診断日に話し合いを行い、治療方針を決定します。

得意分野

■口唇裂・口蓋裂に伴う不正咬合に対する包括的治療
出生直後の哺乳障害への対応に始まり、成長期における顎顔面の成長発育のコントロールや不正咬合の治療を他診療科と連携して行います。
■リンガルブラケット矯正
歯の裏側に矯正装置を装着する、目立たない矯正治療です。
■外科的矯正治療
下顎前突や顎偏位の患者さんに種々のコンピューターシミュレーションを行い、予見性のある外科手術を計画します。
■歯科矯正用アンカースクリューを用いた矯正歯科治療
歯科矯正用アンカースクリューを固定源に用いることで、患者さんの負担を最小限に抑えた治療です。

対象疾患

上顎前突、下顎前突、叢生などの一般的な不正咬合。歯の萌出不全などによる埋伏歯の牽引。入れ歯やクラウンブリッジなどの補綴治療に先立つ補綴前矯正治療。
顎変形症、口唇裂・口蓋裂、6歯以上の歯の先天性欠損、ゴールデンハー症候群（鰓弓症候群を含む）、鎖骨頭蓋異骨症、クルーゾン症候群、トリーチャーコリンズ症候群、ピエールロバン症候群、ダウン症候群、ラッセルシルバー症候群、ターナー症候群、ベックウィズ・ヴィードマン症候群、尖頭合指症、ソトス症候群、マルファン症候群などの先天性疾患に伴う不正咬合は保険診療の対象です。

主な検査

頭部X線規格写真による骨格分析、模型分析、コンピューターシミュレーション、顎運動測定、咬合力測定

外科的矯正治療による顔貌の変化

治療前

治療中

治療後

歯科

小児歯科

[外来]tel.088-633-7374
[医局]tel.088-633-7359　[医局]fax.088-633-9132

健康な歯で食べ物をよく噛んで食べることは、子どもの身体の成長に必要であるばかりでなく、健全な「こころ」を育成するための基本要素です。さらに子どもの時に正しい咬み合わせを獲得し、これを生涯維持する方法を学ぶことは、今後の豊かな人生をおくるための原動力となります。小児歯科は、口腔を通して、子どもの健全な体とこころをつくることを実践している診療科です。

診療体制

リコールシステムに基づいて、う蝕の予防・治療、歯列・咬合の育成、外傷治療、正中埋伏過剰歯の摘出、上唇・舌小帯伸展術、粘液嚢胞の摘出等の外科処置および顎関節症の治療を行っています。

治療方針

小児は成長・発達をつづけるため、口の中も年齢とともに大きく変わり、生まれて歯がない状態から乳歯が萌出し、さらに永久歯列へとダイナミックに変化していきます。小児歯科では、子どもが成人したときに正しい咬み合わせを持つことを目標に治療を行っていきます。

得意分野

治療が怖くてできない小児に対しては、歯科治療に対する不安や恐怖を軽減するための心理的アプローチ法や精神鎮静法を併用して治療を行っていきます。また、歯科麻酔科や高次歯科診療部(障碍者歯科部門)と連携して、通常の歯科治療を受けることが困難である障碍児の歯科治療を行っています。小児の睡眠時無呼吸に対しても歯科的側面から積極的に対応しています。

主な検査

個人の顎の模型を作成し、さらにデンタルエックス線写真やパノラマエックス線写真およびCT写真を併用し、現在の問題点や歯並びおよび咬み合わせの成長の分析を行います。また、治療による効果の判定について、将来の予測値と比較することで定期的にフィードバックを行い、個人に最も適した治療法を選択します。

医科病棟への往診

全身麻酔下での歯科治療

小児歯科外来診療風景

歯科

口腔外科

[外来]tel.088-633-7376
[医局]tel.088-633-7354　[医局]fax.088-633-7462

顎・口腔領域の炎症、腫瘍、嚢胞、外傷、先天異常、後天異常等の診断、治療ならびに医療情報提供を行っています。

診療体制

外来、入院診療ともに、一人ひとりの患者さんに対して、口腔外科専門医が診察・診断の上、担当医が責任をもって診療を行う体制をとっています。また、入院患者さんの治療方針は、口腔外科医全員が参加して毎週行う教授回診・カンファレンスにおいて検討・決定されます。

治療方針

最新の医学・生物学知見と臨床経験に基づいた高度な診療の実践を目指します。疾病の根治はもちろん、口腔機能の維持、回復にも十分配慮し、患者さんのQOLを考慮した治療を行います。

得意分野

口腔腫瘍および顎骨嚢胞に対する治療:口腔潜在的悪性疾患(癌になる手前の病気)を有する患者さんや、舌癌や歯肉癌などの口腔癌あるいは良性腫瘍の患者さん、顎骨嚢胞の患者さんに対して、症状に応じた治療と定期的な経過観察を行っています。

外科的矯正治療における顎矯正手術:一般の歯科矯正だけでは治療できない上下顎のバランスを治す手術(顎矯正手術)を矯正歯科および開業矯正医と連携して行っています。

顎顔面外傷に対する治療:顎顔面の骨折は咬合不全、咀嚼機能の異常、開口障害、発音障害、視力障害などを伴います。できる限り顔面にメスを入れず、口腔内から顎顔面外傷の治療を行っています。

歯科インプラント治療:歯の欠損に対して、人工の歯根(インプラント)による咬合の回復を補綴科(そしゃく科、かみあわせ補綴科)、口腔インプラントセンターと共同で行っています。

顎関節症に対する治療:薬やマウスピースによる保存的治療を主体的に行っていますが、奏功しない場合には、外科的治療(関節腔内の洗浄療法、内視鏡による手術、関節開放手術など)を行っています。

対象疾患

顎・口腔領域の炎症、腫瘍、嚢胞、外傷、先天異常、後天異常、顎関節疾患、歯科インプラントなど

主な検査

超音波検査、顎顔面外傷に対する3D-CT、顎関節症のMRI、歯科インプラントの術前CT、口腔癌に対する造影CT など

歯科

口腔内科

[外来]tel.088-633-7376
[医局]tel.088-633-7352　[医局]fax.088-633-7388

口腔内科は、口腔疾患ならびに全身疾患に付随する口腔症状について診断し、治療を行う診療科です。

診療体制

初診日は水・木曜日、再診日は月・水・木・金曜日で、8名の歯科医師が外来診療と入院診療を行っています。初診の患者さんの診断は、各専門医・指導医が担当します。

日本口腔外科学会専門医・指導医２名、日本口腔科学会認定医・指導医２名、日本口腔内科学会専門医１名、日本口腔顎顔面痛学会専門医・指導医1名、がん治療認定医(歯科口腔外科)１名、日本口腔外科学会認定医2名が在籍しています。

治療方針

患者さん一人ひとりに最適な治療法を提案し、安心して治療を受けていただけるように心がけています。多種多様な口腔疾患を扱うため、毎週症例検討会を行い、最新の知見に基づいた質の高い医療を提供できるよう努力しています。疾患の治療を通じて、患者さんのQOLの向上と健康増進を目指します。

得意分野・対象疾患

■口腔粘膜疾患(白板症、口腔扁平苔癬、紅板症、口腔カンジダ症、単純ヘルペス、帯状疱疹、難治性口内炎、など)

■唾液腺疾患(ドライマウス、シェーグレン症候群、唾石症、粘液嚢胞、など)

■炎症性疾患(歯周組織の炎症、顎骨の炎症、顎骨周囲の炎症、歯性上顎洞炎、など)

■口腔心身症(舌痛症、非定型歯痛・顎顔面痛、口腔セネストパチー、歯科治療恐怖症、など)、味覚障害

■有病者歯科治療:有病者の患者さんには、血圧、心電図、経皮的酸素飽和度をモニタリングしながら、低侵襲の操作で安全に抜歯等の観血的歯科治療を行っています。歯科治療恐怖症の患者さんには、精神鎮静法を併用して負担の少ない治療を行っています。

■骨吸収抑制薬(ビスフォスフォネート(BP製剤)、抗RANKL抗体)投与前ならびに頭頸部放射線治療前の口腔スクリーニングと口腔衛生指導:薬剤関連顎骨壊死や放射線性骨髄炎の発症予防に努めています。

■周術期等口腔機能管理:周術期の患者さんの合併症予防に取り組んでいます。

主な検査

画像検査(エックス線検査、CT、MRI、エコー、唾液腺シンチグラフィ)、口腔機能検査(ガムテスト、サクソンテスト)、血液検査、細菌・真菌検査、味覚機能検査

歯科

歯科麻酔科

[外来]tel.088-633-7376
[医局]tel.088-633-7367　[医局]fax.088-633-7368

歯科麻酔科では、歯科治療中に気分が悪くなったことがある方、怖くて歯の治療が受けられない方、神経疾患による不随意運動などの障害をお持ちの方などで歯科治療が困難な患者さんや快適で安全な治療を希望されている患者さんの歯科治療に対応する診療科です。当科の業務は、こうした歯科麻酔科外来での診療と、手術部における口腔外科領域の手術や処置の麻酔管理/全身管理に分かれます。

診療体制・治療方針

【モニター管理下での歯科治療】

高血圧、狭心症や糖尿病などの全身的疾患をお持ちの患者さんは、歯科診療中に緊張や痛みで症状が悪化することがあります。このような患者さんの場合、心電図や血圧計などのモニターをつけた状態で歯科治療を行い、処置中に体調が急変した場合に、すぐに対処できるようにしています。

【精神鎮静法を用いた歯科治療】

歯の治療が怖くて受けられない患者さん、嘔吐反射が強くて歯科治療が困難な患者さん、快適で安全な歯科治療を希望される患者さんなどに対して、精神安定薬や静脈麻酔薬の点滴や麻酔ガスを吸入して歯科治療を行います。意識が保たれたまま、緊張がとれてリラックスした状態で快適に歯科治療を受けることができます。

【全身麻酔下での歯科治療】

知的障害など様々な理由によって通常の歯科治療が困難な患者さんに対して、全身麻酔下に歯科治療を行います。治療当日に来院して全身麻酔下に治療をうけ、その日のうちに帰宅する日帰り全身麻酔による歯科治療にも対応が可能です。

【手術部での麻酔管理 / 全身管理】

口腔外科領域における侵襲の大きな手術時の全身麻酔や精神鎮静法の管理を行っています。

得意分野

■歯科治療時の精神鎮静法、全身麻酔

■口腔外科手術の全身麻酔、静脈内鎮静法

■歯科治療中の合併症への対応

対象疾患

■歯科治療に対する不安、恐怖症

■歯科治療時に障害となる嘔吐反射

■歯科局所麻酔薬アレルギー

主な検査

■歯科局所麻酔薬アレルギー検査

診療科名	役職	職名	氏名	専門分野
むし歯科	科長	教授	保坂　啓一	う蝕、歯髄疾患、根尖性歯周炎、歯周病
	副科長	准教授	中西　正	う蝕、歯髄疾患、根尖性歯周炎、歯周病
	総務医長	講師	細川　育子	う蝕、歯髄疾患、根尖性歯周炎、歯周病
	外来医長	助教	武川　大輔	う蝕、歯髄疾患、根尖性歯周炎、歯周病
		講師	菅　俊行	う蝕、歯髄疾患、根尖性歯周炎、歯周病
		講師	細川　義隆	う蝕、歯髄疾患、根尖性歯周炎、歯周病
		助教	米倉　和秀	う蝕、歯髄疾患、根尖性歯周炎、歯周病
		助教	細川　由樹	う蝕、歯髄疾患、根尖性歯周炎、歯周病
		助教	伊田　百美香	う蝕、歯髄疾患、根尖性歯周炎、歯周病
		教授	伊藤　博夫	う蝕、歯髄疾患、根尖性歯周炎、歯周病
		教授	尾崎　和美	う蝕、歯髄疾患、根尖性歯周炎、歯周病
歯周病科	科長	教授	湯本　浩通	歯髄疾患、根尖性歯周炎、歯周病
	副科長	講師	成石　浩司	歯周病の遺伝子診断、糖尿病と歯周病
	総務医長	講師	稲垣　裕司	歯周病の遺伝子診断、糖尿病と歯周病
	外来医長	助教	二宮　雅美	歯周組織再生療法、歯周病細菌PCR検査
		助教	板東　美香	歯周組織再生療法、糖尿病と歯周病
		助教	生田　貴久	歯周病、根尖性歯周炎、歯周組織再生療法
		助教	木戸　理恵	歯周組織再生療法、糖尿病と歯周病
		助教	植村　勇太	歯周病、歯周組織再生療法
		准教授	玉木　直文	歯周病の予防治療
そしゃく科	科長	教授	市川　哲雄	歯科補綴治療、高齢者歯科、インプラント
	副科長・総務医長	准教授（病院教授）	永尾　寛	歯科補綴治療、高齢者歯科、摂食嚥下リハビリテーション、顎補綴
		講師	渡邉　恵	歯科補綴治療、インプラント
		講師	石田　雄一	歯科補綴治療、インプラント
		助教	後藤　崇晴	歯周病補綴治療、高齢者歯科、顎補綴
	外来医長	助教	岩脇　有軌	歯科補綴治療、インプラント
		助教	松田　岳	歯科補綴治療、高齢者歯科
		助教	藤本　けい子	歯科補綴治療、高齢者歯科
かみあわせ補綴科	科長	教授	松香　芳三	歯科補綴、口腔顔面痛、顎関節症、睡眠歯科、インプラント、高齢者歯科、歯科用金属アレルギー
	副科長	准教授	大島　正充	歯科補綴、インプラント、高齢者歯科
	総務医長	講師	大倉　一夫	歯科補綴、口腔顔面痛、顎関節症、睡眠歯科、スポーツ歯科、インプラント
	外来医長	講師	鈴木　善貴	歯科補綴、顎関節症、睡眠歯科、スポーツ歯科、高齢者歯科
		講師	細木　眞紀	歯科補綴、歯科用金属アレルギー
		助教	宮城　麻友	歯科補綴、インプラント、高齢者歯科、歯科用金属アレルギー
		助教	井上　美穂	歯科補綴、高齢者歯科、インプラント、歯科用金属アレルギー
		助教	生田目　大介	歯科補綴、口腔顔面痛、顎関節症、高齢者歯科、インプラント
歯科放射線科	科長・総務医長・外来医長	准教授	細木　秀彦	口腔・顎・顔面領域・顎関節の画像診断
	副科長	講師	前田　直樹	口腔・顎・顔面領域・顎関節の画像診断
		助教	水頭　英樹	口腔・顎・顔面領域の画像診断、高齢者歯科
矯正歯科	科長	教授	田中　栄二	歯科矯正、先天異常、顎変形症、顎関節症
	副科長	講師	堀内　信也	歯科矯正、先天異常、顎変形症、顎関節症
	総務医長	助教	渡邉　佳一郎	歯科矯正、先天異常、顎変形症
	外来医長	講師	日浅　雅博	歯科矯正、先天異常、顎変形症
		助教	松木　佑太	歯科矯正
		助教	清水　宗	歯科矯正
		助教	中上　絵美子	歯科矯正
		助教	吉永　薫	歯科矯正
小児歯科	科長	教授	岩﨑　智憲	小児歯科、障害者歯科
	副科長	講師	長谷川　智一	小児歯科、障害者歯科
	総務医長	助教	上田　公子	小児歯科、障害者歯科
	外来医長	助教	赤澤　友基	小児歯科、障害者歯科
		講師	中川　弘	小児歯科、障害者歯科
		助教	北村　尚正	小児歯科、障害者歯科
		助教	伊田　百美香	う蝕、歯髄疾患、根尖性歯周炎、歯周病
		助教	河原林　啓太	小児歯科、障害者歯科
口腔内科	科長・総務医長	准教授（病院教授）	青田　桂子	口腔内科、口腔外科、周術期口腔機能管理
	副科長・病棟医長	講師	桃田　幸弘	口腔心身症、口腔顔面痛、緩和ケア
		助教	可児　耕一	口腔内科、口腔外科、周術期口腔機能管理
		特任助教	高野　栄之	周術期口腔機能管理、災害歯科
	外来医長	助教	浪花　耕平	口腔内科、口腔外科、周術期口腔機能管理
		助教	福場　真美	口腔内科、口腔外科、周術期口腔機能管理

スタッフ一覧
令和五年四月一日現在［最新情報は徳島大学病院ホームページでご確認ください。］

診療科名	役職	職名	氏名	専門分野
口腔外科	科長	教授	宮本　洋二	口腔腫瘍、顎変形症、顎顔面外傷、顎関節疾患、顎顔面再建、顎嚢胞、顎顔面の先天異常、歯科インプラント
	副科長・病棟医長	講師	栗尾　奈愛	口腔腫瘍、顎変形症、顎顔面外傷、顎関節疾患、顎顔面再建、顎嚢胞、顎顔面の先天異常、歯科インプラント
	総務医長	講師	工藤　景子	口腔外科一般、口腔腫瘍
	外来医長	講師	髙丸　菜都美	口腔腫瘍、顎変形症、顎顔面外傷、顎嚢胞
		講師	高橋　章	口腔外科一般、口腔・顎・顔面領域・顎関節の画像診断
		助教	工藤　隆治	口腔外科一般、放射線治療（口腔腫瘍）
		助教	山村　佳子	口腔外科一般、周術期口腔機能管理
		助教	福田　直志	口腔外科一般、口腔腫瘍、顎顔面再建
		助教	上杉　篤史	口腔外科一般
		助教	鎌田　久美子	口腔外科一般
		助教	秋田　和也	口腔外科一般
		助教	南　憲一	口腔外科一般、顎補綴、歯科インプラント
歯科麻酔科	科長	教授	川人　伸次	歯科麻酔科学、ペインクリニック、緩和医療、集中治療
	副科長	准教授	高石　和美	歯科麻酔科学、障害者歯科
	総務医長	講師	江口　覚	歯科麻酔科学
	外来医長	助教	藤原　茂樹	歯科麻酔科学